

○基本計画の名称：田原市中心市街地活性化基本計画

○作成主体：愛知県田原市

○計画期間：平成 28 年 4 月～令和 3 年 3 月（5 年 0 ヶ月）

第 1 章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 地域の概況

①田原市の位置

愛知県の南端に位置し、北は風光明媚な三河湾、南は勇壮な太平洋、西は伊勢志摩を臨む伊勢湾と三方を海に囲まれた渥美半島のほぼ全域が市域となっている。海岸延長は約 100km に及び、唯一、東側を陸続きに豊橋市と接している。

太平洋に沿い伊勢湾方向へ突き出した東西に細長く伸びる半島であり、東西延長は 30km、南北延長（半島としての幅の最も長い距離の部分）は、10.1km（緯度の高低による南北延長は 15.5km）、最高標高は 327.9m、行政面積は 191.12k m²である。



②田原市の自然・気候

市域の多くは三河湾国定公園、渥美半島県立自然公園に指定され、海と山に囲まれた美しい自然環境を有しており、中でも蔵王山、伊良湖岬、大石海岸（太平洋ロングビーチ）などは、大勢の観光客が訪れる景勝地となっている。

また、太平洋・三河湾といった特性の異なる二つの海に面しているなど多様な地理的条件を有していることから、多種多様な動植物が見られる。表浜（太平洋）のアカウミガメ、三河湾のスナメリ、渥美半島を経路とするサシバ（鷹）の渡り、全国有数の渡り鳥の飛来地である汐川干潟、国指定のシデコブシや貴重種のハマボウ等の群生地、県指定天然記念物の黒河湿地に生息するハッチョウトンボなど、貴重な動植物の宝庫である。

気候は、太平洋の黒潮の影響で、年間を通じて温暖な気候であるが、海に突き出た半島特有の地形のため、年間を通じて大変風の強い地域となっている。

2004～2013 年の平均気象
（伊良湖観測所）

平均気温	16.4℃
年間降水量	1,594.6mm
平均風速	夏季 3.0m/s
	冬季 4.3m/s
年間日照時間	2,245.4 時間

③田原市の沿革

この地域には、吉胡・伊川津・保美の三大貝塚をはじめ、数多くの縄文遺跡が点在しており、いにしへの昔から人々の生活が営まれてきた。奈良時代からは製塩が、また、平安時代末期から鎌倉

時代にかけては、やきもの（渥美焼）が盛んとなり、中世における窯業の一大産地を形成した。

南北朝の争乱期から戦国時代になると、それまで伊勢神宮領が大部分であった渥美半島でも、公卿領、さらに戦国国人層の所領へと徐々に支配の形態が変化した。

文明 12 年（1480 年）頃、田原城を築いた戸田氏は、一時、渥美半島全域と知多半島の南半分を領有したが、天文 16 年（1547 年）には今川義元、永禄 8 年（1565 年）には徳川家康の攻略を受けその支配下となり、天正 18 年（1590 年）には東三河一円を領有した吉田城主池田輝政に統治されることになった。

江戸時代になると渥美半島内は、藩領・旗本知行地・天領（幕府直轄領）・寺領が入り組んで存在していた。田原城を中心とする田原藩は、寛文 4 年（1664 年）には三宅康勝が田原城主となり、以後、三宅家が 12 代にわたり 1 万 2 千石を領有した。

なお、幕末の先覚者、画家として有名な渡辺崋山は、田原藩の家老職にあった。一方、元禄元年（1688 年）には、大垣新田藩が戸田氏成によって成立し、市内福江町にあたる畠村に陣屋を構え、その他にも旗本清水氏・諏訪氏・本多氏などの支配が明治維新まで続いた。

明治初年（1868 年）、現田原市の地域には 59 の村（田原：31 村、赤羽根：6 村、渥美：22 村）が存在していた。その後、明治 4 年（1871 年）の廃藩置県、改置府県により、渥美半島における全村は額田県の所属となり、翌年には現在の愛知県の所属となった。明治 11 年（1878 年）の郡区町村編成法の公布時までには 41 の村に集約され、さらに、明治 22 年（1889 年）の愛知県における市制町村制の施行時までには 15 村へと統合が進んだ。（明治の大合併）

明治 38 年（1905 年）に愛知県が町村合併計画を公表し、これを契機に翌 39 年には豊橋市と渥美郡が分離し、田原地域は杉山村、田原町、野田村、神戸村の 4 町村となり、赤羽根地域では赤羽根村が誕生し、渥美地域では伊良湖岬村、泉村、福江町の 3 町村に再編された。

昭和に入り、戦後、地方自治法の施行を経て、昭和 28 年（1953 年）には町村合併促進法が施行された。これを受けて昭和 30 年（1955 年）1 月には田原町、野田村、神戸村の合併により田原町が新設され、同年 4 月には、田原町が杉山村（現豊橋市）の一部であった六連地区を編入することにより、今回の合併前の田原町の区域となった。同じく同年 4 月、伊良湖岬村、泉村、福江町の合併により渥美町も誕生した。（昭和の大合併）。また、赤羽根村では、昭和 33 年（1958 年）に町制を施行して赤羽根町となった。

その後は田原・赤羽根・渥美による 3 町の時代が 50 年近く続いたが、合併特例法の改正を背景としたいわゆる平成の大合併により、平成 15 年（2003 年）8 月 20 日に田原町が赤羽根町を編入合併するとともに市制施行し田原市となった。さらに、2 年後の平成 17 年（2005 年）10 月 1 日、渥美町の編入合併により、現在の「田原市」が誕生した。



田原城跡



渡辺崋山

④中心市街地の沿革と役割

文明 12 年（1480 年）頃に田原城が築城され、城下町ができたことが、本市中心市街地の始まりとなっている。江戸時代になると、田原藩 1 万 2 千石の藩庁となり、城下町は政治・経済の中心地として栄えた。大正 13 年（1924 年）には渥美電鉄田原駅（現在の豊橋鉄道三河田原駅）が開業し、地域の交通拠点として機能し始めた。合併前の旧田原町役場は、かつては本町に立地していたが、昭和の大合併に伴い現在の位置（南番場）に移転し、平成の三町合併（田原市制施行）後も引き続き旧田原町役場が市役所となっている。このように、この辺りのエリアは、古くから地域の中心として機能してきている。

また、改定版第 1 次田原市総合計画では、このエリアを「田原中心市街地」として位置づけ、商業・業務、教育文化、生活・居住など、多様な都市機能の集約を図るとしている。

[2] 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

①人口動態等 ※H12 の田原市の数値は旧田原町、旧赤羽根町、旧渥美町の合計値

【面積】

- ・臨海部の埋め立てにより、市域面積は若干増加している。
- ・人口集中地区（D I D）は中心市街地を中心に広がっており、面積は拡大している。

表. 田原市、DID、中心市街地の面積（各年国勢調査）

※パーセントは田原市に対する割合 ※中心市街地の面積は地図上で計測

	H12	H17	H22
田原市	18,858ha	18,858ha	18,881ha
DID	206ha (1.1%)	222ha (1.2%)	250ha (1.3%)
中心市街地	-	88ha (0.5%)	88ha (0.5%)

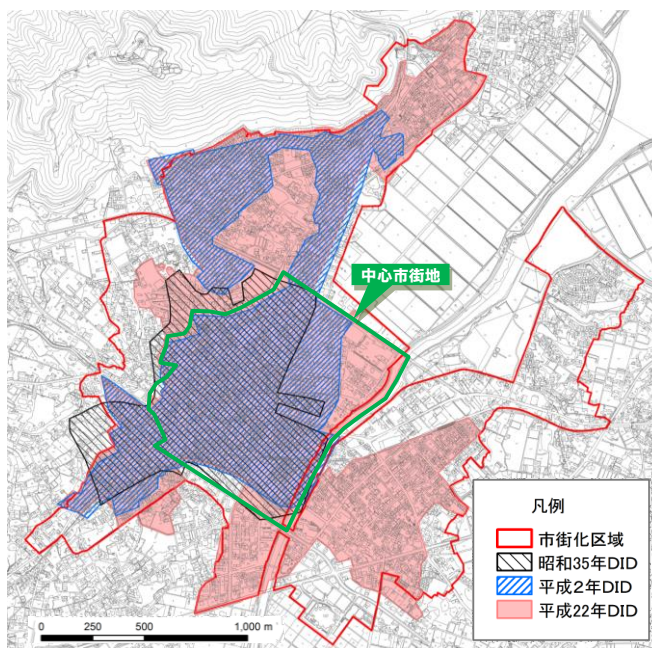


図. 人口集中地区の変遷
(各年国勢調査)

【居住人口】

- ・ 田原市の人口は、平成 12 年から 17 年にかけて増加し、17 年以降は減少に転じている。中心市街地人口は平成 17 年以降 26 年まで減少が続いている。

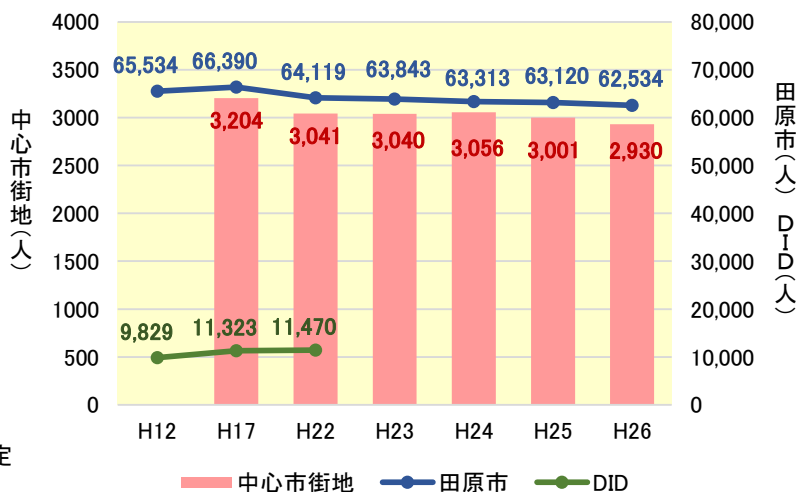


図. 人口の推移 (各年 10 月 1 日)

※H12～22 は国勢調査
 ※H23～26 は国勢調査ベースの人口を住民基本台帳人口の動向から推計
 ※中心市街地は調査区データから算定

【年齢別人口】

- ・ 15 歳未満人口は、田原市では減少傾向にあり、D I D では平成 12 年から 17 年にかけて増加したが 22 年に減少に転じている。中心市街地も、平成 17 年から 22 年に減少している。
- ・ 15 歳～64 歳人口は、田原市、D I D ともに平成 12 年から 17 年にかけて増加したが 22 年に減少に転じている。中心市街地も、平成 17 年から 22 年に減少している。
- ・ 65 歳以上人口は、田原市、D I D ともに増加傾向にあり、その割合も高まっている。中心市街地では、人口は平成 17 年から 22 年に減少しているが、その割合は高まっている。

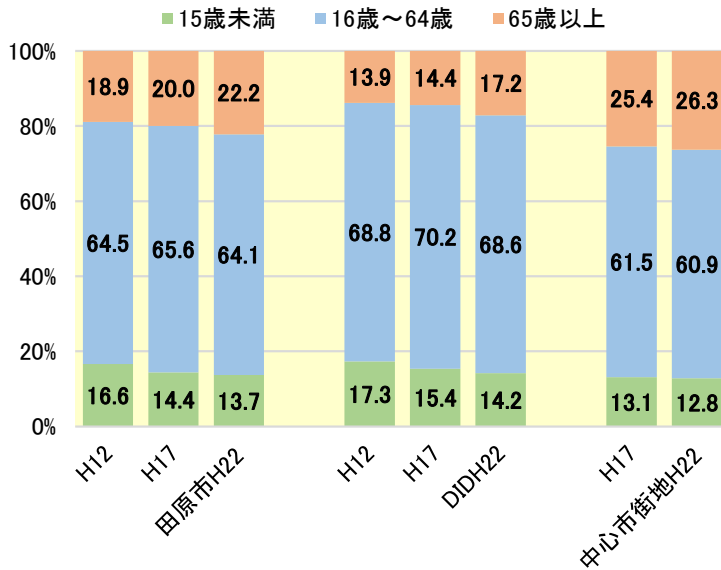
表. 年齢 3 区分別人口の推移 (各年国勢調査)

※中心市街地は調査区データから算定、割合は年齢不詳を除く人口に対する割合

		H12	H17	H22
田原市	15 歳未満	10,893 人 (16.6%)	9,550 人 (14.4%)	8,788 人 (13.7%)
DID		1,701 人 (17.3%)	1,727 人 (15.4%)	1,624 人 (14.2%)
中心市街地		-	414 人 (13.1%)	390 人 (12.8%)
田原市	15 歳～64 歳	42,235 人 (64.5%)	43,368 人 (65.6%)	41,005 人 (64.1%)
DID		6,766 人 (68.8%)	7,848 人 (70.2%)	7,835 人 (68.6%)
中心市街地		-	1,939 人 (61.5%)	1,852 人 (60.9%)
田原市	65 歳以上	12,402 人 (18.9%)	13,210 人 (20.0%)	14,224 人 (22.2%)
DID		1,362 人 (13.9%)	1,612 人 (14.4%)	1,959 人 (17.2%)
中心市街地		-	801 人 (25.4%)	799 人 (26.3%)

図. 年齢3区分別人口割合の推移（各年国勢調査）

※中心市街地は調査区データから算定 割合は年齢不詳を除く人口に対する割合



【世帯数】

- ・ 田原市では、平成 12 年から 17 年にかけて増加し、22 年にかけては減少に転じたが、その後 26 年まで増加が続いている。
- ・ 中心市街地では、平成 17 年から 25 年にかけて増加したが 26 年から減少に転じている。

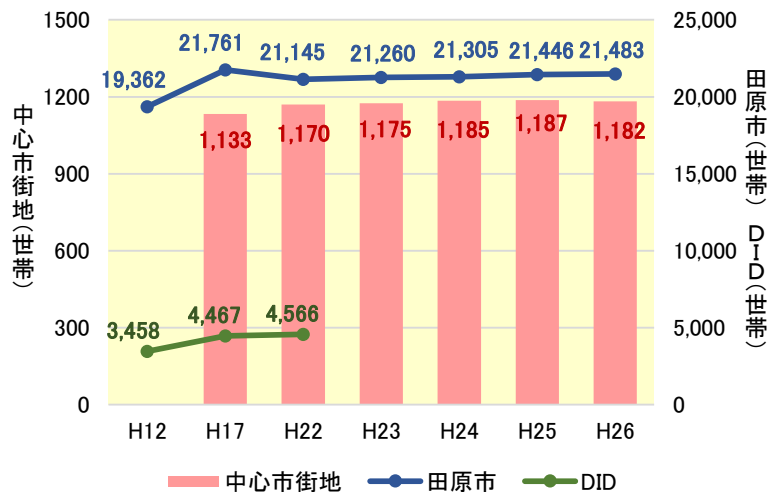


図. 世帯数の推移(各年 10 月 1 日)

※H12～22 は国勢調査

※H23～26 は国勢調査ベースの人口を住民基本台帳人口の動向から推計

※中心市街地は調査区データから算定

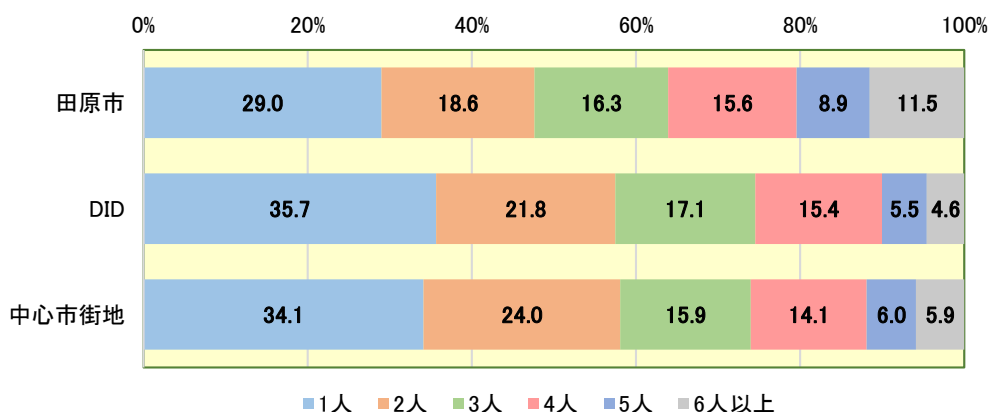
【世帯人数別世帯数】

・DID、中心市街地では、田原市に比べ1人世帯、2人世帯の割合が高く、一方で4人世帯、5人世帯、6人以上世帯の割合は低くなっている。

表. 世帯人数別の一般世帯数（平成22年国勢調査）※中心市街地は調査区データから算定

	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
田原市	6,130 世帯	3,934 世帯	3,440 世帯	3,305 世帯	1,883 世帯	2,437 世帯
DID	1,627 世帯	996 世帯	778 世帯	704 世帯	250 世帯	208 世帯
中心市街地	399 世帯	280 世帯	186 世帯	165 世帯	70 世帯	69 世帯

図. 一般世帯数に対する世帯人数別の割合（平成22年国勢調査）



【世帯の形態】

・DIDでは、田原市に比べ6歳未満のいる世帯、18歳未満のいる世帯、3世代世帯、65歳以上のいる世帯の割合は低くなっており、一方で65歳以上単独世帯の割合は高くなっている。

・中心市街地では、田原市に比べ6歳未満のいる世帯、18歳未満のいる世帯、3世代世帯のいる世帯の割合は低くなっており、65歳以上のいる世帯、65歳以上単独世帯の割合、ともに65歳以上夫婦のみ世帯の割合は高くなっている。特に65歳以上単独世帯の割合が高くなっている。

図. 一般世帯数に対する主な世帯の形態別の割合（平成22年国勢調査）

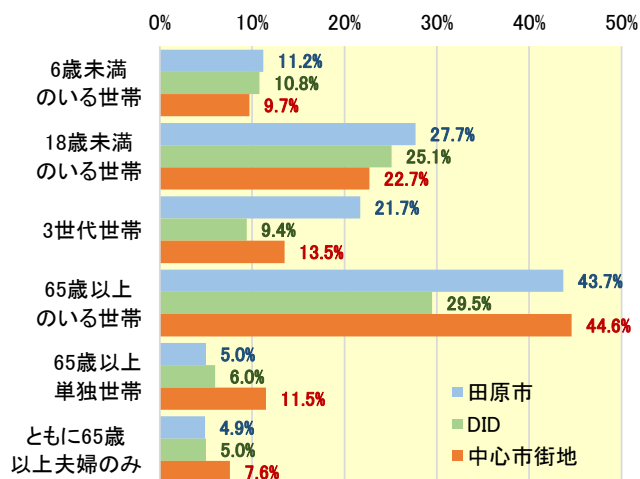


表. 主な世帯の形態別一般世帯数（平成22年国勢調査）

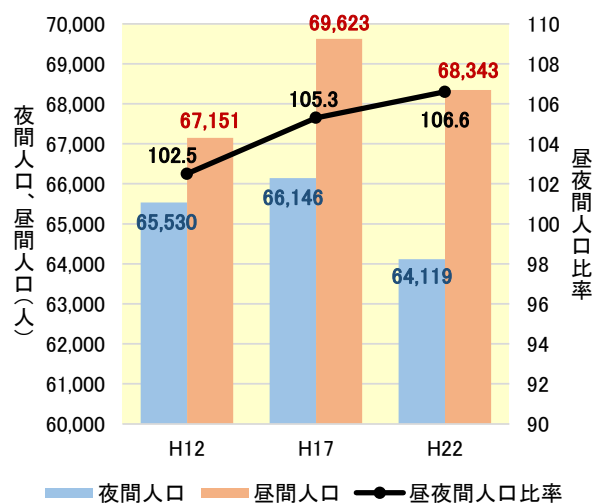
※中心市街地は調査区データから算定

	6歳未満のいる世帯	18歳未満のいる世帯	3世代世帯	65歳以上のいる世帯	65歳以上単独世帯	ともに65歳以上夫婦のみ
田原市	2,371 世帯	5,854 世帯	4,577 世帯	9,224 世帯	1,058 世帯	1,035 世帯
DID	492 世帯	1,145 世帯	430 世帯	1,346 世帯	276 世帯	226 世帯
中心市街地	113 世帯	265 世帯	158 世帯	522 世帯	134 世帯	89 世帯

【昼間人口】

- ・田原市では、夜間人口より昼間人口が多く、夜間人口、昼間人口ともに平成12年から17年にかけて増加したが22年に減少に転じている。昼夜間人口比率は高まる傾向にある。

図. 田原市の夜間人口、昼間人口、昼夜間人口比率の推移
(各年国勢調査)



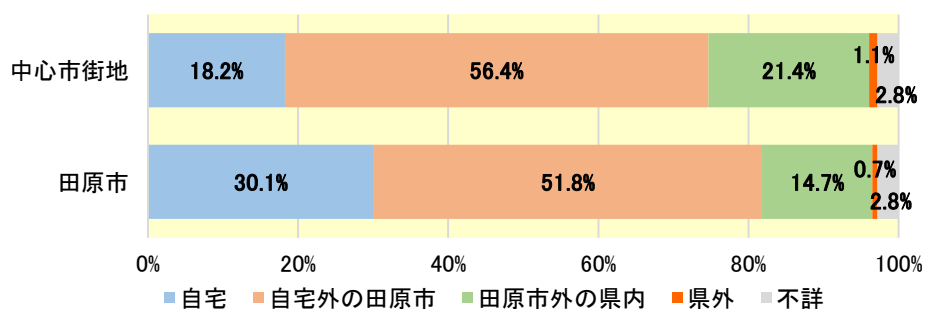
【通勤・通学先】

- ・田原市では、自宅外の田原市に次いで自宅で働く人の割合が高くなっており、中心市街地では、田原市外の県内への通勤・通学者の割合が高くなっている。

表. 就業者・通学者の通勤・通学先 (平成22年国勢調査)

	自宅	自宅外の田原市	田原市外の県内		県外
				うち豊橋市	
田原市	12,460人	21,434人	6,069人	5,146人	270人
中心市街地	324人	1,002人	380人	—	20人

図. 就業者・通学者数に対する通勤・通学先の割合 (平成22年国勢調査)



【通勤・通学の利用交通手段】

- ・ 田原市、中心市街地ともに、自家用車による通勤・通学者が非常に多くなっている。
- ・ 中心市街地は徒歩だけでも多くなっている。

表. 通勤・通学の利用交通手段（平成 22 年国勢調査）

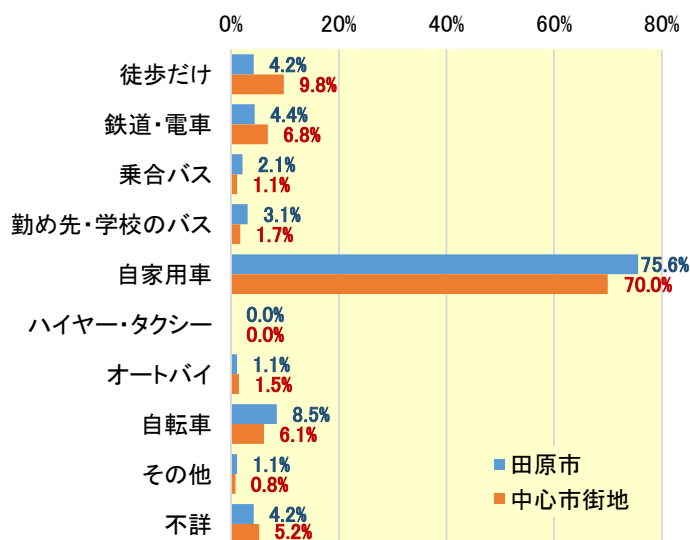
※割合は自宅以外の就業者・通学者数に対する割合 複数の交通手段利用があるため、割合の合計は 100%にならない

	徒歩だけ	鉄道・電車	乗合バス	勤め先・学校のバス	自家用車
田原市	1,203 人	1,261 人	604 人	898 人	21,615 人
中心市街地	140 人	97 人	16 人	24 人	1,001 人

	ハイヤー・タクシー	オートバイ	自転車	その他	不詳
	6 人	327 人	2,417 人	303 人	1,198 人
	0 人	21 人	88 人	12 人	75 人

図. 通勤・通学の利用交通手段の割合
（平成 22 年国勢調査）

※割合は自宅以外の就業者・通学者数に対する割合 複数の交通手段利用があるため、割合の合計は 100%にならない



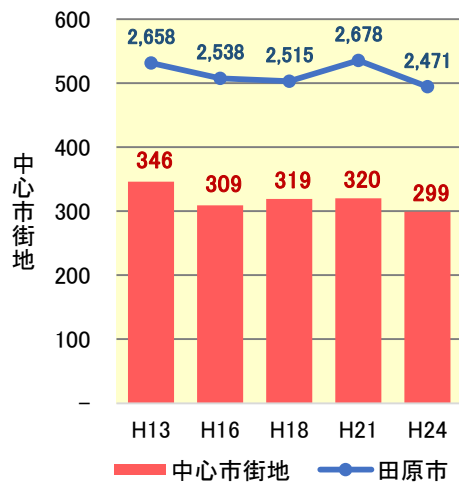
②経済活力関係

【田原市及び中心市街地の事業所の状況】

- ・事業所数は、田原市では平成18年から21年にかけて一時的に増加したものの、減少傾向が続いている。中心市街地においては、平成16年から18年にかけて市街地再開発事業等の効果により若干増加したが、平成24年には減少に転じた。平成13年から24年の減少率は、田原市の7.0%に対し、中心市街地では13.6%となっている。
- ・従業者数は、田原市では臨海部を中心に平成18年までは大きく増加し、その後も工場立地等により緩やかに増加している。中心市街地では、事業所数の推移とほぼ同様の傾向を示しており、平成13年から16年に大きく減少し、平成16年から18年にかけて増加したが、その後は減少が続いている。
- ・産業大分類別の中心市街地の事業所数は、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、医療・福祉が多くなっている。田原市に対する割合は、情報通信業、金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業、医療・福祉が高くなっている。
- ・産業大分類別の中心市街地の従業者数は、卸売業・小売業、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業が多くなっている。田原市に対する割合は、金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業、教育・学習支援業、情報通信業が高くなっている。

図. 中心市街地及び田原市の民営事業所の推移 (資料: 経済センサス、事業所・企業統計調査)

【事業所数】



【従業者数】

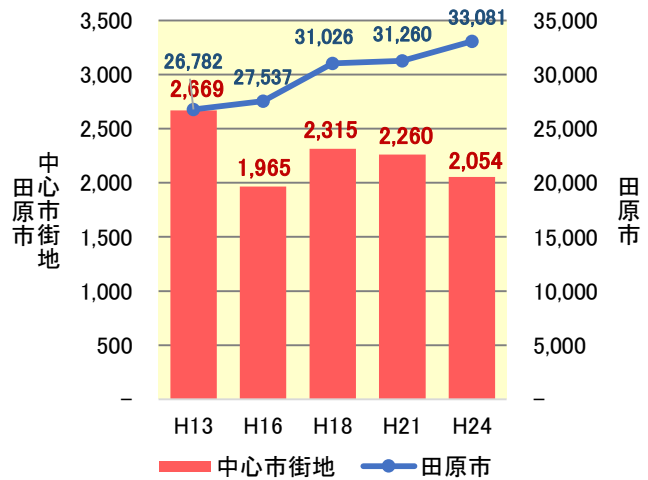


図. 中心市街地内に立地する田原市商工会
会員事業所数の推移
(資料: 田原市商工会)

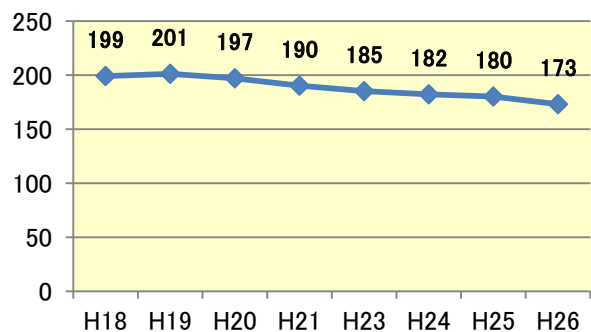


表. 産業大分類別の民営事業所数 (資料:経済センサス、事業所・企業統計調査) ※割合は田原市に対する割合

		総数	農林漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業
田原市	H18	2,515	34	2	334	158	3	3	65	789
	H21	2,678	106	0	342	164	5	8	81	841
	H24	2,471	106	2	309	159	5	7	81	725
中心市街地	H18	319 12.7%	0 0.0%	0 0.0%	21 6.3%	13 8.2%	0 0.0%	0 0.0%	5 7.7%	114 14.4%
	H21	320 11.9%	1 0.9%	0 -	16 4.7%	13 7.9%	0 0.0%	1 12.5%	8 9.9%	107 12.7%
	H24	299 12.1%	1 0.9%	0 0.0%	16 5.2%	13 8.2%	0 0.0%	2 28.6%	7 8.6%	102 14.1%
		金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業(他に分類されないもの)
田原市	H18	29	39	50	356	222	81	110	39	201
	H21	31	52	54	360	218	68	113	30	205
	H24	29	49	49	345	204	59	117	24	201
中心市街地	H18	8 27.6%	6 15.4%	9 18.0%	49 13.8%	41 18.5%	11 13.6%	25 22.7%	2 5.1%	15 7.5%
	H21	9 29.0%	15 28.8%	9 16.7%	50 13.9%	37 17.0%	11 16.2%	23 20.4%	2 6.7%	18 8.8%
	H24	7 24.1%	11 22.4%	9 18.4%	45 13.0%	33 16.2%	10 16.9%	23 19.7%	2 8.3%	18 9.0%

表. 産業大分類別の民営事業所従業員数 (資料:経済センサス、事業所・企業統計調査) ※割合は田原市に対する割合

		総数	農林漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業
田原市	H18	31,026	304	9	2,236	14,599	58	16	1,363	4,813
	H21	31,260	988	0	2,152	12,654	63	42	1,720	5,123
	H24	33,081	973	4	1,992	15,560	61	38	1,759	4,378
中心市街地	H18	2,315 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	119 5.3%	267 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	110 8.1%	691 14.4%
	H21	2,260 7.2%	15 1.5%	0 -	102 4.7%	125 1.0%	0 0.0%	12 28.6%	153 8.9%	598 11.7%
	H24	2,054 6.2%	21 2.2%	0 0.0%	68 3.4%	68 0.4%	0 0.0%	8 21.1%	141 8.0%	671 15.3%
		金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業(他に分類されないもの)
田原市	H18	336	125	201	2,369	835	265	1,737	562	1,198
	H21	386	168	345	2,961	891	220	1,925	488	1,134
	H24	351	172	260	2,936	861	213	2,009	394	1,120
中心市街地	H18	159 47.3%	11 8.8%	39 19.4%	269 11.4%	174 20.8%	38 14.3%	267 15.4%	104 18.5%	67 5.6%
	H21	197 51.0%	55 32.7%	44 12.8%	292 9.9%	152 17.1%	40 18.2%	365 19.0%	53 10.9%	57 5.0%
	H24	174 49.6%	49 28.5%	35 13.5%	246 8.4%	152 17.7%	51 23.9%	283 14.1%	35 8.9%	52 4.6%

【田原市及び中心市街地の卸売業・小売業の推移】

- ・田原市では、卸売業の事業所数、従業者数ともに平成18年から21年には増加したが、24年には減少している。小売業の事業所数は、平成18年から21年には増加したが、24年には減少し、従業者数は平成18年から減少している。
- ・中心市街地では、卸売業の事業所数、従業者数ともに増加しているものの、小売業については減少している。特に小売業の事業所数は、平成18年から24年に20%減少している。

図. 田原市及び中心市街地の卸売業・小売業の事業所数の推移

(資料: 経済センサス、事業所・企業統計調査)

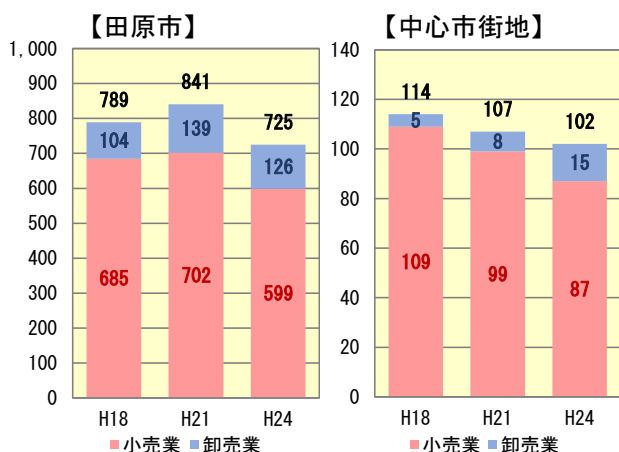
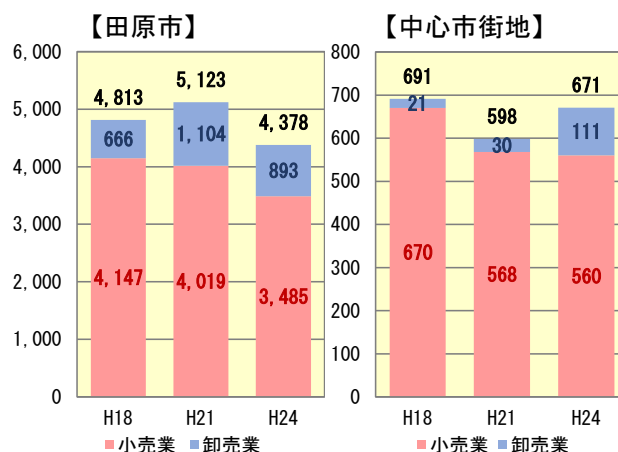


図. 田原市及び中心市街地の卸売業・小売業の従業者数の推移

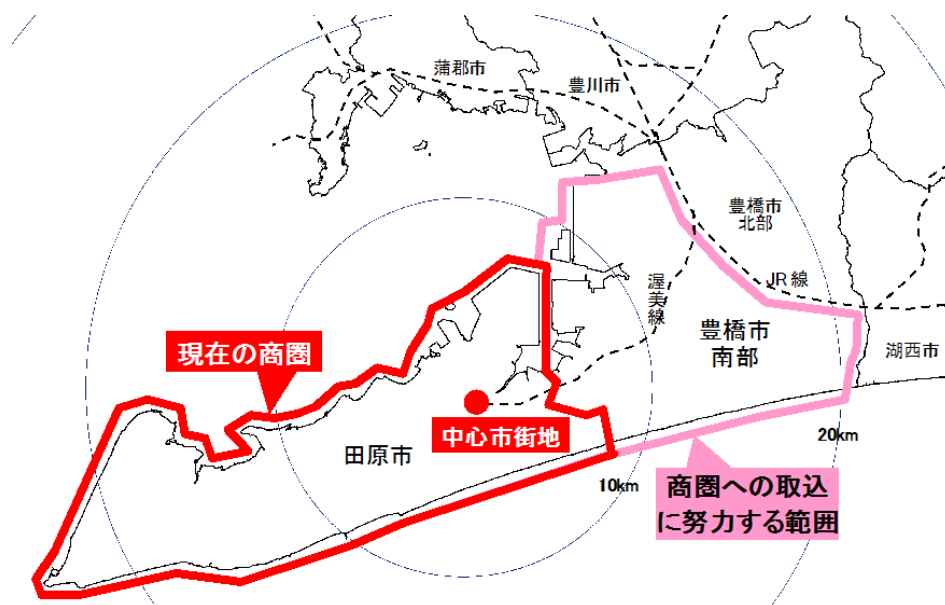
(資料: 経済センサス、事業所・企業統計調査)



【中心市街地の商圈】

- ・「消費者購買動向調査」(愛知県)からは、中心市街地の商圈は現在の田原市域のみとなっている。しかし、中心市街地には豊橋鉄道渥美線三河田原駅が立地し、渥美線沿線からアクセスが便利であることから、豊橋市にはない魅力を創造することにより、豊橋市南部(JR線以南)も商圈としての取込に努力する必要がある。

図. 田原市中心市街地の現状の商圈と商圈への取込に努力する範囲



【商圏内の人口・世帯の状況】

- ・人口は、現状商圏の田原市に 6.4 万人を有しており、努力商圏の豊橋市南部を含めると合計 26.1 万人となる。
- ・世帯数は、現状商圏の田原市に 2.1 万世帯を有しており、努力商圏の豊橋市南部を含めると合計 9.5 万世帯となる。
- ・世帯当たり人数は、現状商圏の田原市の 3.03 人/世帯に対し、努力商圏の豊橋市南部を含めると 2.75 人/世帯となる。

表. 人口、世帯数、世帯当たり人数(平成 22 年国勢調査)

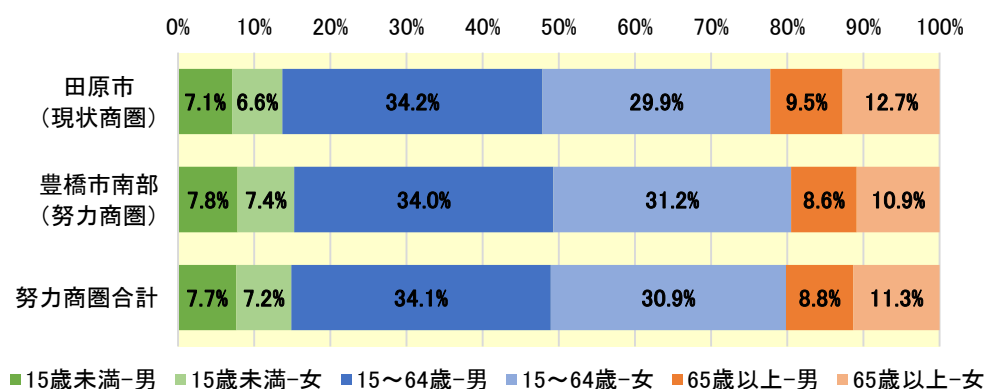
	人口 (人)	世帯数 (世帯)	世帯当たり人数 (人/世帯)
田原市(現状商圏)	64,119	21,145	3.03
豊橋市南部(努力商圏)	197,229	73,876	2.67
努力商圏合計	261,348	95,021	2.75

- ・15 歳未満の割合は、現状商圏の田原市が 13.7%、努力商圏の豊橋市南部を含めると 14.9%、15 歳～64 歳の割合は現状商圏の田原市が 64.1%、努力商圏の豊橋市南部を含めると 65.0%、65 歳以上は現状商圏の田原市が 22.2%、努力商圏の豊橋市南部を含めると 20.1%となっている。
- ・全体として、現状商圏の田原市に比べ努力商圏の豊橋市南部の方が年齢が低い傾向にある。

表. 男女別年齢 3 区分別人口(平成 22 年国勢調査) ※人口の合計には年齢不詳も含む

	人口	15 歳未満	15 歳～64 歳	65 歳以上
田原市(現状商圏)	64,119	8,788	41,005	14,224
男	32,573	4,564	21,862	6,091
女	31,546	4,224	19,143	8,133
豊橋市南部(努力商圏)	197,229	29,779	127,272	38,039
男	99,877	15,265	66,411	16,802
女	97,352	14,514	60,861	21,237
努力商圏合計	261,348	38,567	168,277	52,263
男	132,450	19,829	88,273	22,893
女	128,898	18,738	80,004	29,370

図. 男女別年齢 3 区分別人口割合(平成 22 年国勢調査) ※年齢不詳を除く人口に対する割合



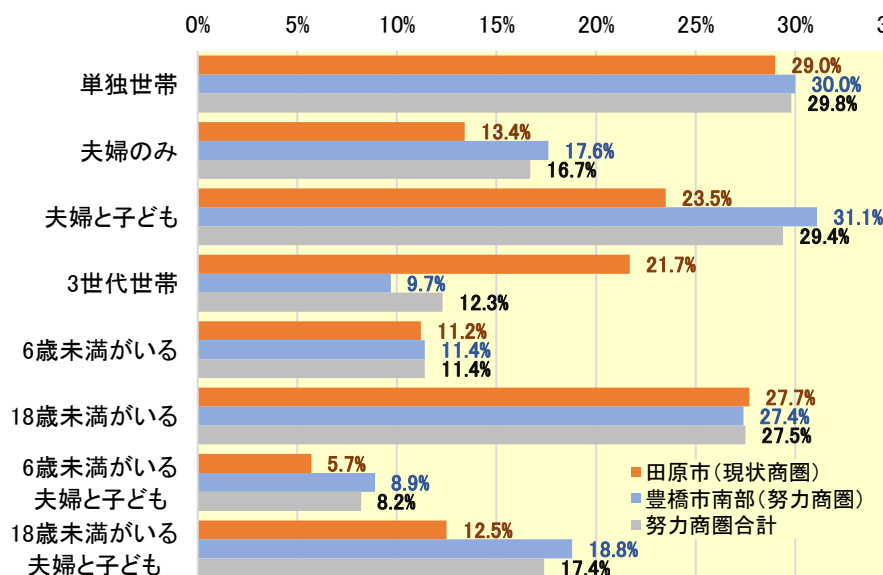
- ・単独世帯は、現状商圏の田原市、努力商圏の豊橋市南部ともに概ね30%となっている。
- ・夫婦のみの世帯は、現状商圏の田原市が13.4%、努力商圏の豊橋市南部を合わせると16.7%であり、また、夫婦と子どもからなる世帯は、現状商圏の田原市が23.5%、努力商圏の豊橋市南部を合わせると29.4%であり、ともに努力商圏の豊橋市南部をあわせると割合が高くなっている。
- ・3世代世帯は、現状商圏の田原市が21.7%、努力商圏の豊橋市南部を合わせると12.3%であり、現状商圏の田原市の割合が高くなっている。
- ・6歳未満がいる一般世帯は、現状商圏の田原市、努力商圏の豊橋市南部ともに約11%、18歳未満がいる一般世帯はともに約27%となっている。
- ・6歳未満がいる夫婦と子どもからなる一般世帯及び18歳未満がいる夫婦と子どもからなる一般世帯では、現状商圏の田原市に比べ努力商圏の豊橋市南部を合わせると割合が高くなっている。

表. 世帯構成別一般世帯数(平成22年国勢調査)

	一般世帯数	単独世帯	夫婦のみの世帯	夫婦と子どもからなる世帯	3世代世帯
田原市(現状商圏)	21,129	6,130	2,830	4,964	4,577
豊橋市南部(努力商圏)	73,811	22,163	13,004	22,923	7,125
努力商圏合計	94,940	28,293	15,834	27,887	11,702

	6歳未満がいる一般世帯	18歳未満がいる一般世帯	6歳未満がいる夫婦と子どもからなる一般世帯	18歳未満がいる夫婦と子どもからなる一般世帯
田原市(現状商圏)	2,371	5,854	1,199	2,634
豊橋市南部(努力商圏)	8,433	20,236	6,568	13,877
努力商圏合計	10,804	26,090	7,797	16,511

図. 世帯構成別一般世帯数(平成22年国勢調査) ※割合は一般世帯数に対する割合



【買い物場所】

- 平成 21 年において旧田原町の住民は最寄品で 94.1%、準買回品で 71.2%、贈答品で 61.3%が田原町内で買い物しているが、買回品では 29.0%に留まっており、多くは豊橋市で買い物をしている。

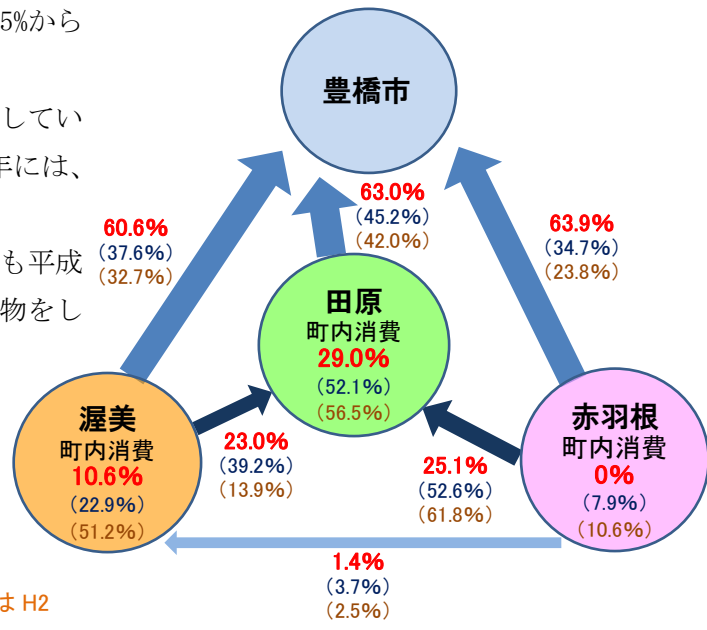
図. 田原市民の買い物場所の変化 (消費者購買動向調査・三河部における動向(愛知県))

※数値は旧町の住民における買い物場所の割合、赤字は H21、青字は H11、茶字は H2
 ※矢印は起点が居住地、終点が買い物場所
 ※田原市民以外が田原市内で買い物する割合は、数値としてあがっていない。

<買回品>

- 旧田原町の町内消費は、平成 2 年の 56.5%から平成 21 年には 29.0%に減少している。
- 旧赤羽根町の住民が旧田原町で買い物をしている割合は、平成 2 年の 61.8%から平成 21 年には、25.1%に減少している。
- 旧田原町、旧赤羽根町、旧渥美町いずれも平成 21 年には 60%以上の住民が豊橋市で買回品をしている。

※買回品
 紳士服、婦人服、
 スポーツレジャー用品、
 電気製品

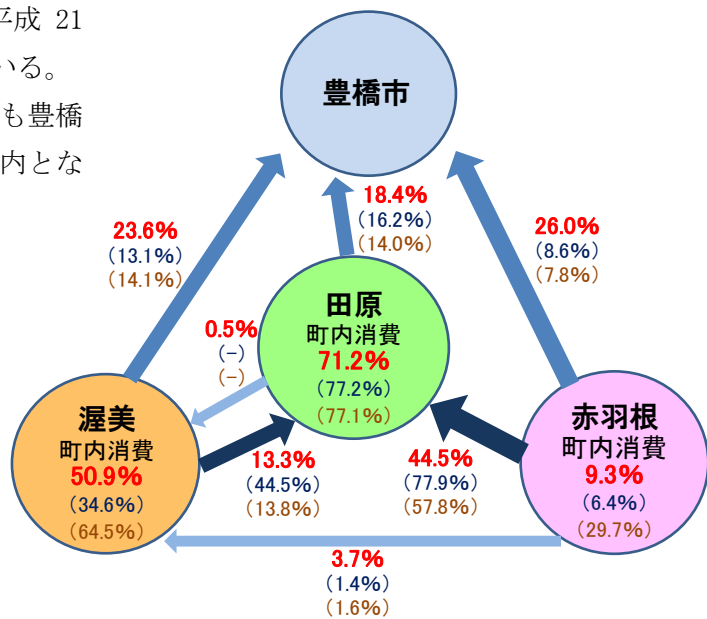


※赤字は H21、青字は H11、茶字は H2

<準買回品>

- 旧田原町の町内消費は、平成 2 年から平成 21 年にかけて、いずれも 70%台で推移している。
- 旧田原町、旧赤羽根町、旧渥美町いずれも豊橋で買回品をしている住民の割合は、30%以内となっている。

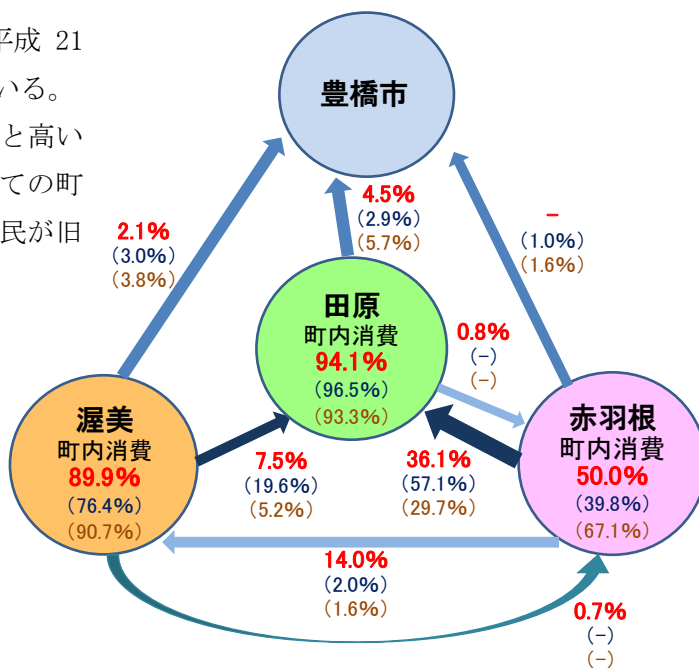
※準買回品
 下着、園芸用品、化粧品



<最寄品>

- ・旧田原町の町内消費は、平成 2 年から平成 21 年にかけて、いずれも 90%台で推移している。
- ・旧渥美町の平成 21 年の町内消費は 89.9%と高い割合になっているが、旧赤羽根町においての町内消費は 50.0%となっており、36.1%の住民が旧田原町で買い物をしている。

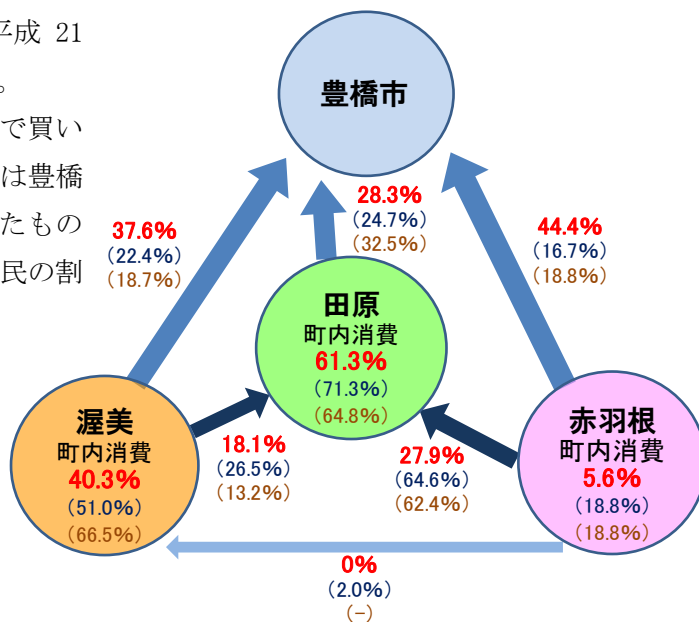
※最寄品
台所用品、日常食料品



<贈答品>

- ・旧田原町の町内消費は、平成 2 年から平成 21 年にかけて、60%~70%台で推移している。
- ・旧赤羽根町、旧渥美町の住民が旧田原町で買い物をしている人の割合は、平成 11 年までは豊橋市で買い物をする住民の割合より多かったものの、平成 21 年には豊橋で買い物をする住民の割合の方が多くなっている。

※贈答品
贈答品



【購買力】

- ・年間の消費支出合計額は、現状商圏の田原市で 261 万円、南部が努力商圏の豊橋市で 275 万円となっている。
- ・田原市、豊橋市ともに、店舗での購買によるものが大きい食料は 71～72 万円、家具・家事用品は 11 万円、被服及び履物は 10～11 万円となっている。

表. 1 世帯当たりの年間支出金額（平成 25 年家計調査）

※家計調査では田原市、豊橋市の数値は記載されていないため、下記の式により推計
 田原市＝浜松市×小都市 A／大都市 豊橋市＝浜松市×中都市／大都市

		田原市	豊橋市
消費支出合計		2,613,060	2,752,358
	食料	709,030	720,375
	住居	173,620	234,670
	光熱・水道	249,159	239,781
	家具・家事用品	111,530	111,371
	被服及び履物	104,375	110,981
	保健医療	123,904	127,839
	交通・通信	483,561	512,364
	教育	84,878	86,449
	教養娯楽	298,273	313,978
	諸雑費	274,730	294,550

【商圏内の事業所の状況】

- ・事業所数は、現状商圏の田原市、南部が努力商圏の豊橋市ともに卸売業・小売業が最も多く、次いで宿泊業・飲食サービス業が多くなっている。

表. 産業大分類別の民営事業所数（資料：平成 24 年経済センサス）

	総数	農林漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業
田原市	2,471 100%	106 4.3%	2 0.1%	309 12.5%	159 6.4%	5 0.2%	7 0.3%	81 3.3%	725 29.3%
豊橋市	15,957 100%	106 0.7%	8 0.1%	1,579 9.9%	1,738 10.9%	12 0.1%	145 0.9%	352 2.2%	4,181 26.2%

	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）
田原市	29 1.2%	49 2.0%	49 2.0%	345 14.0%	204 8.3%	59 2.4%	117 4.7%	24 1.0%	201 8.1%
豊橋市	297 1.9%	885 5.5%	684 4.3%	1,987 12.5%	1,482 9.3%	587 3.7%	900 5.6%	72 0.5%	942 5.9%

- ・従業者数は、現状商圏の田原市、南部が努力商圏の豊橋市ともに製造業が最も多く、次いで卸売業・小売業が多くなっている。3番目については、現状商圏の田原市は宿泊業・飲食サービス業、南部が努力商圏の豊橋市は医療・福祉が多くなっている。

表. 産業大分類別の民営事業所従業者数 (資料:平成 24 年経済センサス)

	総数	農林漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業
田原市	33,081 100%	973 2.9%	4 0.0%	1,992 6.0%	15,560 47.0%	61 0.2%	38 0.1%	1,759 5.3%	4,378 13.2%
豊橋市	161,813 100%	1,145 0.7%	65 0.0%	11,416 7.1%	37,191 23.0%	642 0.4%	1,472 0.9%	8,178 5.1%	34,376 21.2%

	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業(他に分類されないもの)
田原市	351 1.1%	172 0.5%	260 0.8%	2,936 8.9%	861 2.6%	213 0.6%	2,009 6.1%	394 1.2%	1,120 3.4%
豊橋市	3,904 2.4%	3,289 2.0%	3,909 2.4%	14,729 9.1%	7,336 4.5%	5,362 3.3%	16,110 10.0%	743 0.5%	11,946 7.4%

【商圏内の小売業、飲食店の状況】

- ・現状商圏の田原市の小売業は、事業所数は 487 件、従業者数は 2,639 人、年間商品販売額は 609 億円、売場面積は 6.5 万㎡となっている。南部が努力商圏の豊橋市では事業所数 2,269 件、従業者数 17,293 人、年間商品販売額は約 3,164 億円、売場面積は 39.8 万㎡となっている。
- ・現状商圏の田原市の飲食店の事業所数は 264 件、南部が努力商圏の豊橋市は 1,791 件であり、ともに専門料理店が多くなっている。

表. 小売業の事業所数等 (資料:平成 24 年経済センサス)

	事業所数	従業者数(人)	年間商品販売額(百万円)	商品手持額(百万円)	売場面積(㎡)
田原市	487	2,639	60,933	8,888	65,293
豊橋市	2,269	17,293	316,446	28,777	398,398

表. 飲食店の事業所数 (資料:平成 24 年経済センサス)

	飲食店計	管理、補助的 事業所	食堂、レストラン	専門料理店	そば・うどん店	すし店	酒場、ビアホール	バー、キャバレー、ナイトクラブ	喫茶店	その他
田原市	264 100%	0 -	40 15.2%	75 28.4%	11 4.2%	12 4.5%	38 14.4%	21 8.0%	55 20.8%	12 4.5%
豊橋市	1,791 100%	5 0.3%	109 6.1%	530 29.6%	100 5.6%	95 5.3%	386 21.6%	156 8.7%	352 19.7%	58 3.2%

【中心市街地付近の大規模小売店舗の状況】

- ・店舗面積 1,000 m²以上の大規模小売店舗は、中心市街地内には食品スーパーが 1 件、その他の田原市内には 7 件ある。そのうち、大規模小売店舗立地法（立地法）又は大規模小売店舗法（大店法）の届出店舗は中心市街地内の店舗を含めて 4 件である。
- ・努力商圏の豊橋市南部には、大規模小売店舗は 23 件、そのうち立地法又は大店法の届出店舗は 20 件である。

表. 田原市、豊橋市南部の大規模小売店舗(店舗面積 1,000 m²以上)(資料:全国大型小売店舗総覧 2015)
店舗施設名称の「*」は大規模小売店舗立地法又は大規模小売店舗法による届出店舗

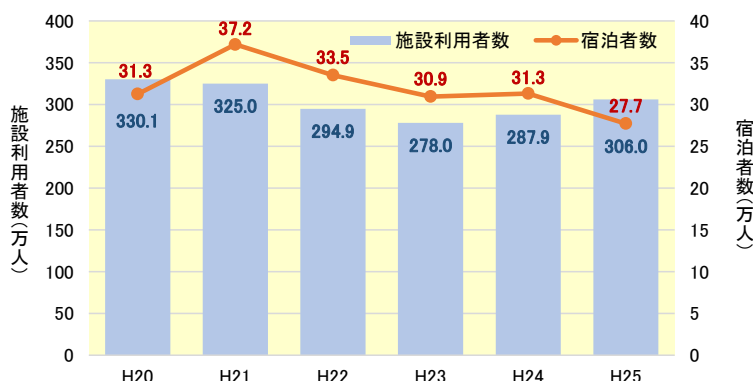
店舗施設名称	業態	住所	店舗面積(m ²)	開設年月	主要販売品	小売店数	立地タイプ	駐車場収容台数
<中心市街地>								
セントファーレ(フードオアシスあつみ) *	食品スーパー	田原町萱町	2,293	2004.7	食料品、家庭用品	6	幹線道路沿道	245
<田原市>								
田原ショッピングタウンパオ(イオン) *	総合スーパー	田原町南新地	7,951	1981.4	総合	24	幹線道路沿道	700
ヤマナカ田原店	食品スーパー	東赤石	1,617	1995.4	食料品、家庭用品	1	幹線道路沿道	110
カーマホームセンター田原店 *	ホームセンター	神戸町大坪	3,464	1993.7	家庭用品、DIY 関連用品	1	幹線道路沿道	250
ケーズデンキ田原店 *	専門店	神戸町大坪	2,228	2007.6	家電、情報通信機器	1	駅前駅近辺	113
ファッションセンターしまむら田原店	専門店	豊島町天白	1,317	1994.9	衣料品、婦人服・洋品	1	幹線道路沿道	90
ショッピングセンター・レイ	寄合百貨店	福江町堂前	2,680	1971.8	衣料品、家庭用品	18	商店街商業地	200
カーマホームセンター渥美店	ホームセンター	古田町宮ノ原	2,408	2000.1	家庭用品、DIY 関連用品	1	幹線道路沿道	100
<豊橋市南部>								
LIFE STAGE21(トイザラス) *	専門店	牟呂町	7,800	1997.6	玩具類・娯楽用品、ベビー用品	2	幹線道路沿道	299
ウッディライフとよはし *	専門店	神野新田町	1,001	1993.11	家具類、インテリア用品	1	幹線道路沿道	-
ビッグタウン(コジマ)	専門店	神野新田町	6,880	1995.6	食料品、家電、情報通信機器	3	幹線道路沿道	-
ジャンボエンチョー豊橋神野店 *	ホームセンター	神野新田町	4,899	2010.9	家庭用品、DIY 関連用品	1	幹線道路沿道	223
ニトリ豊橋店 *	専門店	神野新田町	5,077	2011.12	家具類、インテリア用品	1	幹線道路沿道	130
サーラプラザ豊橋 *	専門店	白河町	1,264	1977.3	家具類、インテリア用品、家庭用品	3	駅前駅近辺	62
イオンタウン豊橋橋良(マックスバリュ) *	食品スーパー	橋良町	3,937	2004.7	食料品、家庭用品	3	住宅地域型	196
フィールエクボとよはし店 *	食品スーパー	柱五番町	6,480	2005.9	食料品、家庭用品、家電	7	住宅地域型	434
カーマホームセンター豊橋山田店 *	ホームセンター	山田町	1,697	1996.9	食料品、家庭用品、DIY 関連用品	2	住宅地域型	-
豊橋ファミリーP(イトーヨーカドー) *	ショッピングセンター	藤沢町	17,130	1978.6	総合	22	幹線道路沿道	900
ヒマラヤスポーツ豊橋店	専門店	小松町	2,106	1995.6	靴・履物、スポーツ用品	1	幹線道路沿道	38
クワイエット・ディー豊橋小松町店 *	専門店	小松町	1,162	2014.12	家庭用品、医薬品・化粧品	1	幹線道路沿道	40
クックマートユーアイ店 *	食品スーパー	弥生町	1,635	1976.4	食料品、家庭用品	1	住宅地域型	200

店舗施設名称	業態	住所	店舗面積(m ²)	開設年月	主要販売品	小売店数	立地タイプ	駐車場収容台数
ヤマナカ豊橋フランテ館 *	食品スーパー	中野町	2,328	1975.3	食料品、家庭用品	4	幹線道路沿道	143
ショッピングプラザあけぼの *	食品スーパー	曙町	1,481	1991.7	食料品、家庭用品	5	住宅地域型	-
マツヤデンキ曙店 *	専門店	曙町	1,371	1992.6	家電、情報通信機器	1	住宅地域型	-
サンヨネ高師店 *	食品スーパー	上野町	1,148	1995.1	食料品	1	住宅地域型	-
くむガーデン *	専門店	向草間町	1,874	1988.7	花・植木・園芸用品	1	幹線道路沿道	95
豊橋南ショッピングセンター(イオン) *	ショッピングセンター	野依町	28,166	1977.6	総合	40	幹線道路沿道	1,875
ファミリープラザ大清水(オーパヤシ) *	寄合百貨店	大清水町	2,354	1977.12	衣料品、家庭用品	11	住宅地域型	160
豊橋南プラザ(カーマホームセンター21) *	ホームセンター	大清水町	14,808	2006.11	家庭用品、DIY 関連用品	4	駅前駅近辺	1,003
ピアゴ大清水店	総合スーパー	南大清水町	2,942	1992.1	食料品、衣料品	17	住宅地域型	750
カメラのキタムラ豊橋牧野店 *	専門店	牧野町	1,254	1997.9	カメラ・写真材料	1	住宅地域型	143

【中心市街地付近の観光の状況】

- ・ 田原市の主な観光施設の利用者数は年間 300 万人程度であり、平成 23 年以降は増加傾向にある。一方で宿泊者数は年間 30 万人程度であり、平成 21 年以降減少傾向にある。

図. 田原市の観光・レクリエーション施設年間利用者数の累計、年間宿泊者数
(資料: 各年愛知県観光レクリエーション利用者統計)



- ・ 中心市街地内の主な観光施設は田原市博物館（田原城跡）となっている。田原市博物館は年間約 1.7 万人の入場者数があり、10 月から 11 月の入場者が多くなっている。
- ・ その他の中心市街地周辺の観光施設の年間利用者は、道の駅田原めっくんはうすが約 61 万人、蔵王山展望台が約 8.2 万人、次いで滝頭公園、シェルマよしごとなっており、道の駅に多くの人が来訪している。

表. 中心市街地付近の観光施設の月別利用者数（人）(資料: 平成 25 年愛知県観光レクリエーション利用者統計)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
<中心市街地内>						
田原市博物館	1,084	1,993	1,587	628	1,088	970
<中心市街地周辺>						
道の駅田原めっくんはうす	44,458	47,562	58,477	51,274	55,096	60,539
蔵王山展望台	9,190	6,305	8,580	6,485	8,255	5,265
滝頭公園	1,518	1,058	3,335	2,764	2,285	1,647
シェルマよしご	282	379	1,208	777	621	356

	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	年計
<中心市街地内>							
田原市博物館	684	760	1,585	2,685	3,085	853	17,002
<中心市街地周辺>							
道の駅田原めっくんはうす	58,642	55,815	44,897	44,264	44,682	47,674	613,380
蔵王山展望台	4,745	7,835	5,510	8,185	5,820	6,620	82,795
滝頭公園	2,230	3,662	3,131	2,155	3,211	1,958	28,954
シェルマよしご	328	931	500	1,161	485	325	7,353

図. 中心市街地付近の観光施設の平成 25 年の月別利用者数の推移
 (各施設 3 月の利用者数を 1 とした時の指数)

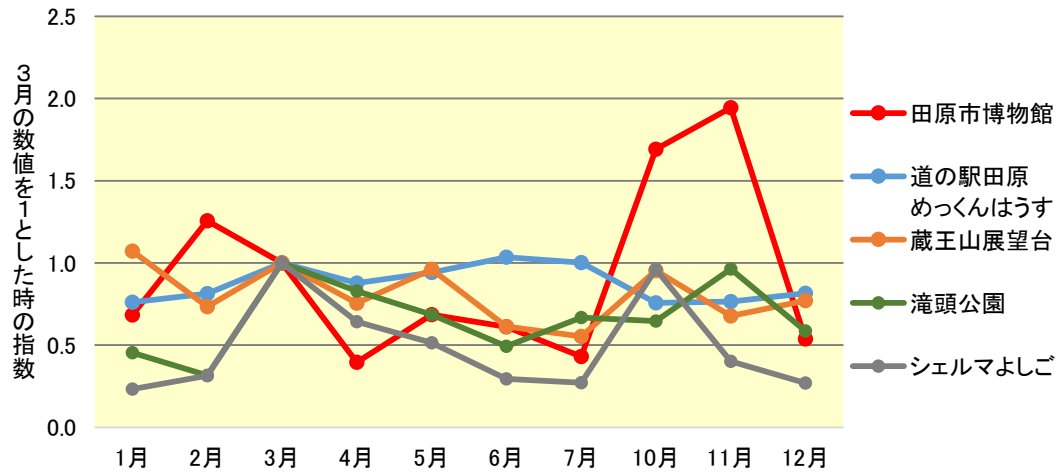


図. 中心市街地付近の主な観光施設の位置 (資料: 田原ウォーキングマップ)



③都市機能関係

【公共施設の状況】

- ・ 田原市の公共施設は、合併前の旧 3 町の中心部を中心に立地しているが、田原市の 159 の施設のうち 25 の施設が旧田原町中心部である中心市街地に立地している。

図. 田原市における公共施設の立地状況（資料:田原市公共施設白書）



表. 公共施設の種類の施設数(平成 26 年度末)

	庁舎等施設	市民館等施設	生涯学習施設	文化施設	体育施設	児童福祉施設	衛生施設	保健・福祉施設
田原市	4	24	9	5	8	23	6	4
中心市街地	1	1	4	2	1	3	0	2

	産業振興施設	観光施設	公営住宅等施設	消防施設	警察施設	学校教育施設	その他施設	計
田原市	1	5	13	3	14	31	9	159
中心市街地	0	1	2	0	1	3	4	25

- ・ 中心市街地においては、田原市全域を対象とした生涯学習施設、文化施設、福祉施設を中心に立地している。

図. 中心市街地における公共施設の立地状況

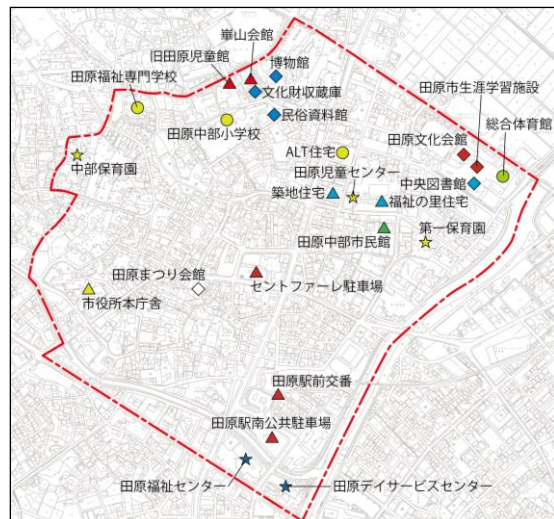


表. 中心市街地に田原市が設置する公共施設の概要（資料:田原市公共施設白書）

種別	施設	建築年	延べ面積	H23 利用者数	備考
庁舎等施設	市役所本庁舎	S32	15,926 m ²	※59,185 件	※事務取扱件数
市民館等施設	田原中部市民館	S62	700 m ²	29,026 人	小学校区施設
生涯学習施設	博物館	H4	2,264 m ²	15,716 人	
	文化財収蔵庫	S33	245 m ²	—	
	民俗資料館	S5	609 m ²	3,735 人	
	中央図書館	H12	3,972 m ²	162,607 人	
文化施設	田原市生涯学習施設	H12	5,173 m ²	58,343 人	
	田原文化広場	S57	4,094 m ²	67,942 人	
体育施設	総合体育館	S53	4,278 m ²	72,541 人	
児童福祉施設	第一保育園	S59	1,305 m ²	※149 人	※園児数
	中部保育園	S54	1,269 m ²	※57 人	※園児数
	田原児童センター	H14	500 m ²	約 32,000 人	
保健・福祉施設	田原デイサービスセンター	H10	1,238 m ²	9,376 人	
	田原福祉センター	H2	7,440 m ²	77,249 人	保健センター機能
観光施設	田原まつり会館	H6	734 m ²	9,827 人	
公営住宅等施設	福祉の里住宅	H15	12,167 m ²	※18 戸	※管理戸数 シルバーハウジング
	築出住宅	H13	2,004 m ²	※24 戸	※管理戸数 特公賃住宅
学校教育施設	田原中部小学校	S9	6,425 m ²	※376 人	※児童数
	田原福祉専門学校	H8	4,404 m ²	—	
	ALT 住宅	—	232 m ²	—	英語指導助手用住宅
その他の施設	セントファーレ駐車場	H16	6,537 m ²	—	
	田原駅南公共駐車場	H22	7,994 m ²	—	
	華山会館	S48	2,227 m ²	—	公益財団法人運営
	旧田原児童館	S39	201 m ²	—	職員待機所

※施設の劣化状況の把握のため複数の建物で構成されている施設は最も建築年の古い建物を基に記載しています。

【公共交通の状況】

◆鉄道（豊橋鉄道渥美線）

- ・新豊橋～三河田原駅を結ぶ豊橋鉄道渥美線は、本市の骨格となる市外への移動の支援手段であり、豊橋鉄道(株)が運行している。市内にある「三河田原駅」「神戸駅」「豊島駅」「やぐま台駅」の4駅のうち「三河田原駅」が中心市街地にあり、早朝・深夜を除いて15分間隔で運行している。

- ・乗車人員は、市内4駅合計値、三河田原駅ともに平成22年度まで減少し、以降は増加している。

図. 田原市内4駅の鉄道年間乗車人員
（資料:豊橋鉄道(株)）

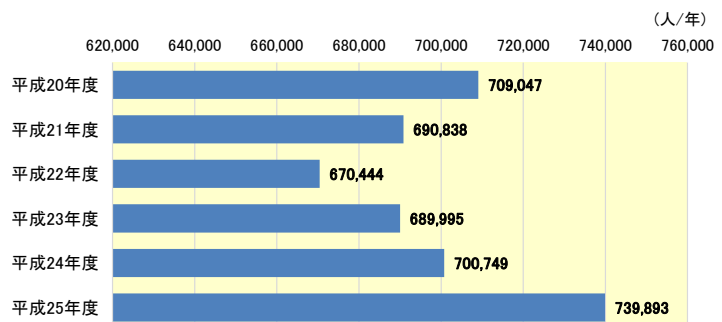
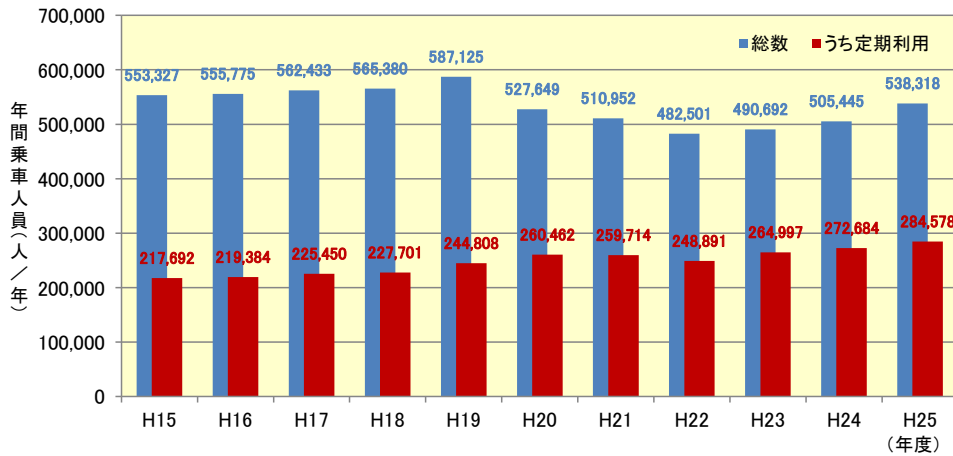


図. 三河田原駅の鉄道年間乗車人員(資料:豊橋鉄道株)



◆路線バス（伊良湖本線・支線）

- ・豊橋駅・三河田原駅～江比間～保美・伊良湖岬を結ぶ「伊良湖本線」、渥美病院・三河田原駅～赤羽根～保美を結ぶ「伊良湖支線」の2路線は、本市の骨格的な市内外への移動の支援手段であり、豊鉄バス株が運行している。
- ・利用者数は、平成23年度まで減少し、これ以降は増加しているが、平成25年度の利用者数は、平成20年度の水準には戻っていない。

図. 伊良湖本線、伊良湖支線のバス年間利用者数(資料:豊鉄バス株)

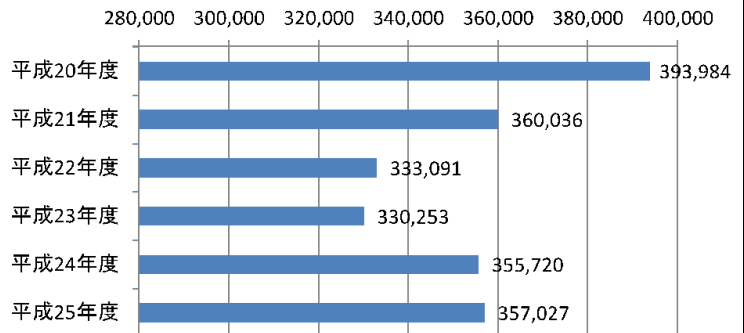


図. 田原市内の公共交通ネットワーク図

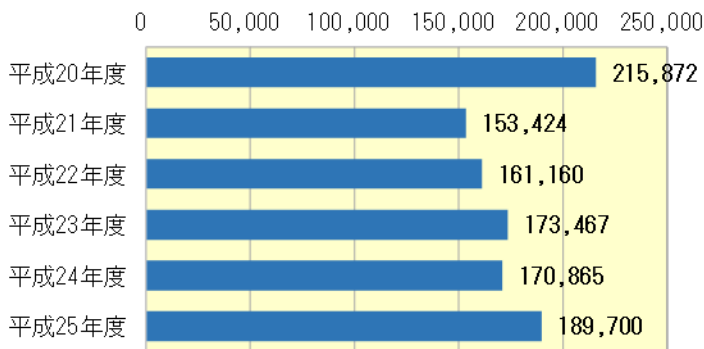


◆田原市コミュニティバス

- ・骨格的な移動支援手段である鉄道・路線バスを補完する役割として、田原市では平成14年度にコミュニティバスの運行を開始している。
- ・利用者数は、平成21年度まで減少し、これ以降は増加しているが、平成25年度の利用者数は、平成20年度の水準には戻っていない。

図. 田原市コミュニティバスの年間利用者数
(資料: 田原市)

平成21年度に9路線から8路線に減少
(西浦循環線の休止)
平成25年度に1路線増加
(八王子線の新設)

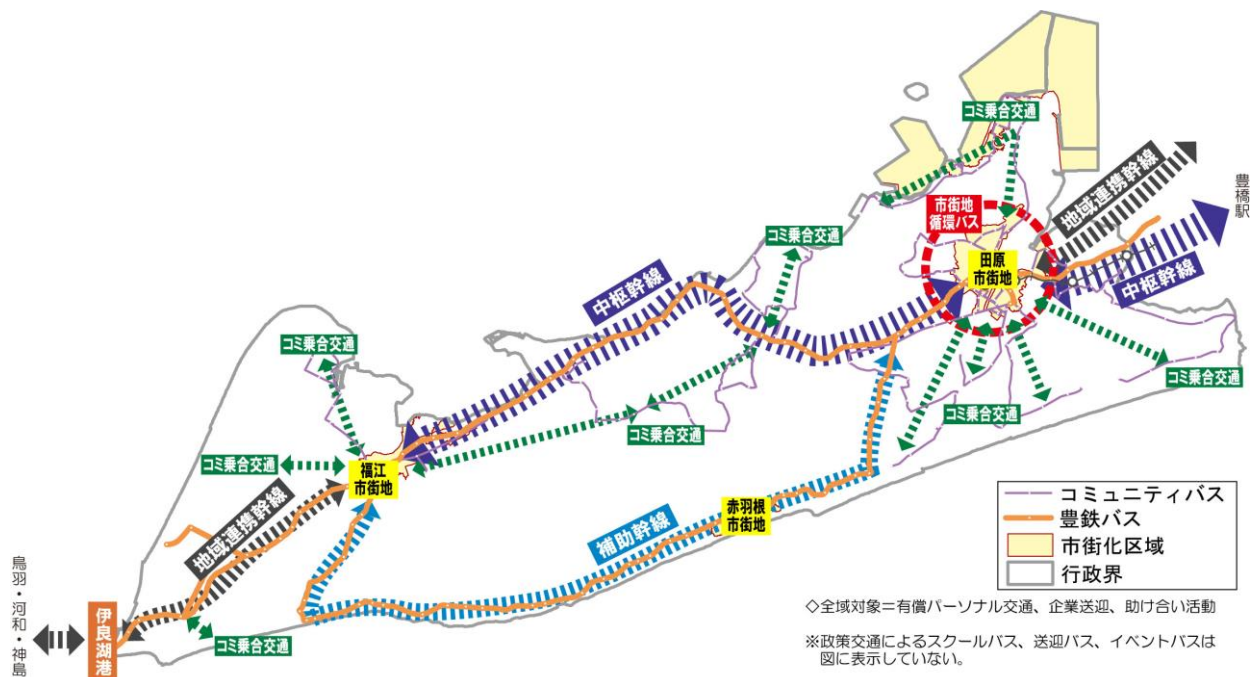
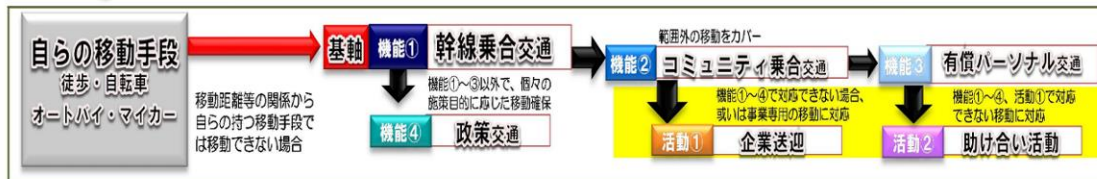


- ・地域公共交通網形成計画（第2次田原市地域公共交通戦略計画）に基づき、平成27年10月1日にコミュニティバスの再編を行った一環として、中心市街地の移動利便性の向上・活性化等を目的とした中心市街地内を循環運行する市街地バス路線を創設した。

図. 市街地バス路線図(資料: 田原市)



図. 公共交通網形成概念図(資料:田原市)



【自動車保有、免許保有の状況】

・田原市の登録自動車数は、平成 21 年から 26 年には、自家用・事業用、乗用・貨物他のいずれの区分においても減少している。

図. 田原市の保有自動車数(各年 3 月末)
(資料:愛知県統計年鑑)

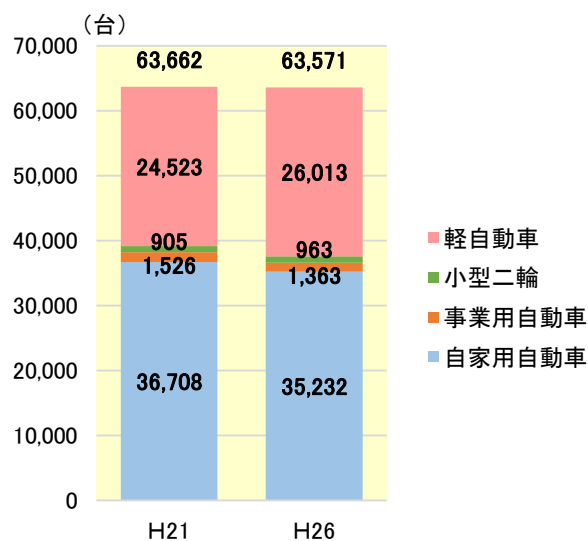
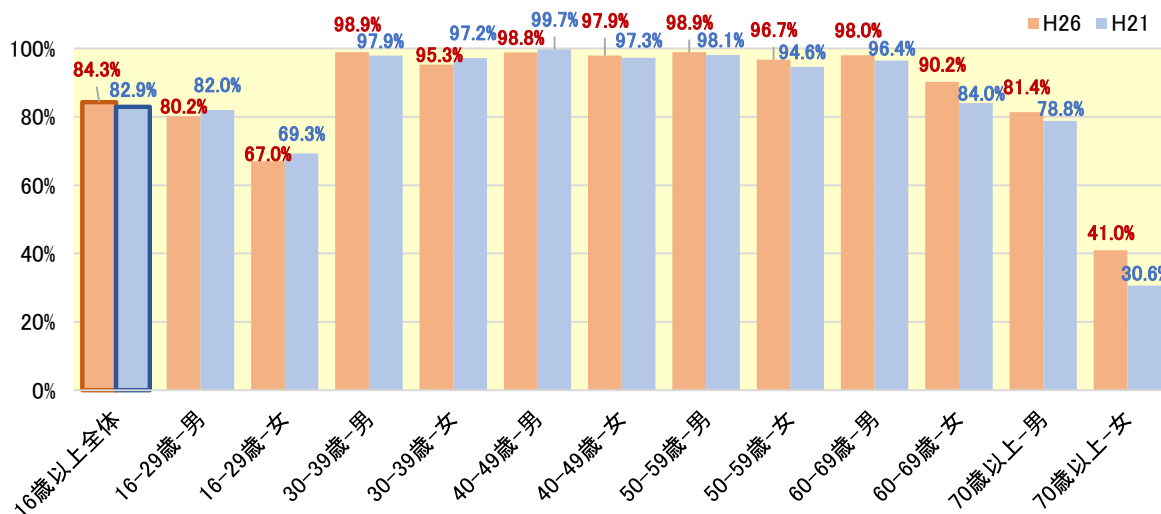


表. 田原市の保有自動車数(各年 3 月末)(資料:愛知県統計年鑑)

	保有自動車数							
	登録自動車数	登録自動車数				小型二輪	軽自動車	
		自家用	事業用	乗用	貨物他			
H21	63,662	38,234	36,708	1,526	26,562	11,672	905	24,523
H26	63,571	36,595	35,232	1,363	26,307	10,288	963	26,013

・市民の運転免許保有率は、16 歳以上人口に対して平成 26 年には 84.3%となっており、平成 21 年から保有率は上昇している。年齢別の保有率は 16～29 歳は低下、30～39 歳及び 40～49 歳はほぼ横ばい、50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上は上昇している。

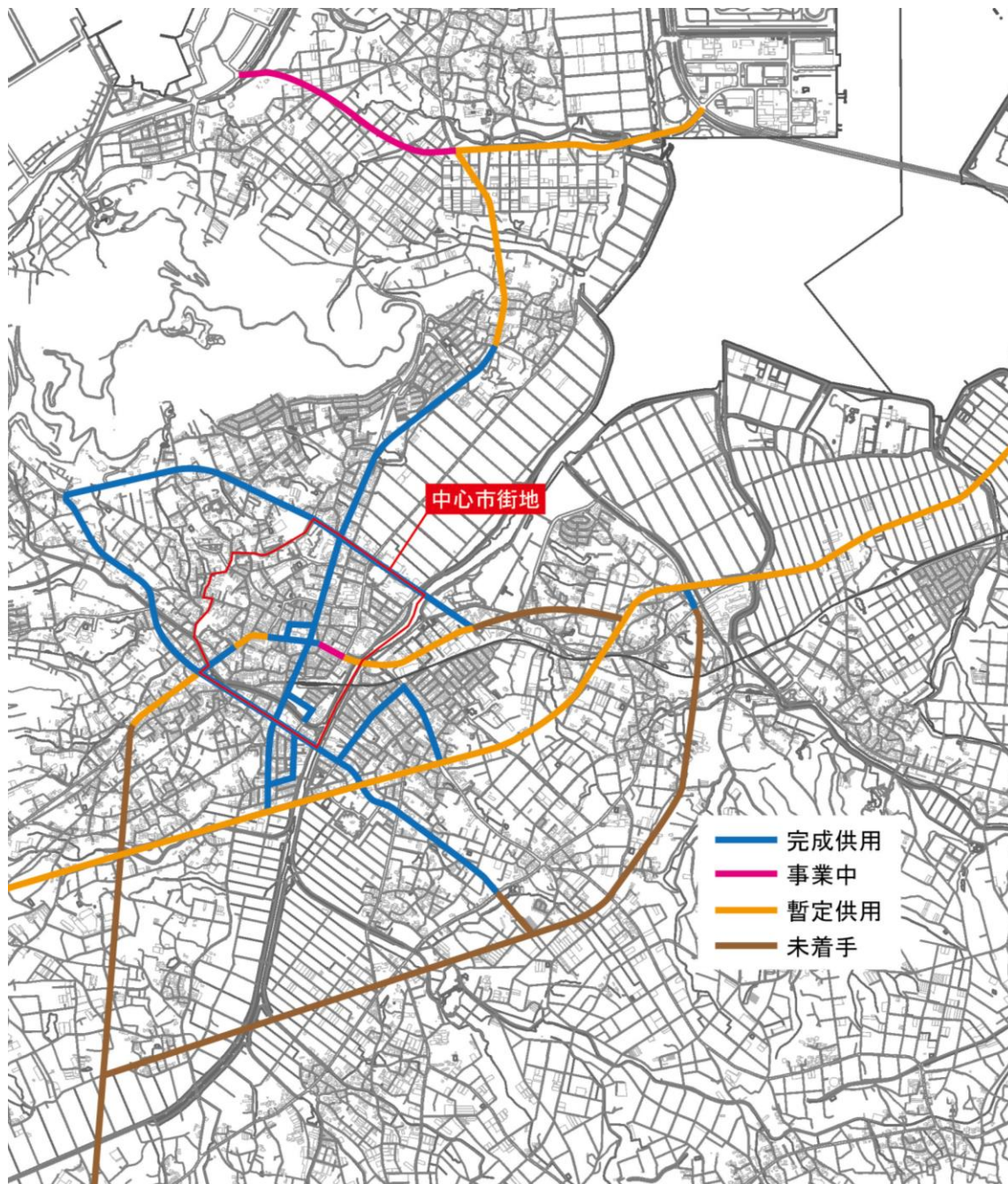
図. 田原市民の運転免許保有率(各年 12 月)(資料:免許保有者数は愛知県警察、人口は田原市)



【都市計画道路の整備状況】

- ・ 田原市の都市計画道路は、主に中心市街地周辺に指定されており、これらの道路は中心市街地へのアクセス道路として機能するものが増えている。
- ・ 中心市街地の都市計画道路は、一部において事業中の区間や暫定供用の区間が残っている。中心市街地の周辺では暫定供用の区間が多く、市街化調整区域では未着手の区間も多く残っている。
- ・ 広域的には、田原市内全体を縦貫する道路の整備が今後の課題となっている。

図. 田原市の都市計画道路の整備状況(平成 26 年度末現在)



【主要道路の自動車通行量、中心市街地の歩行者通行量】

- ・ 中心市街地付近の主要道路（下図の赤丸の中）の自動車通行量（12時間）は、概ね8千台となっており、平成17年から22年にかけての通行量の変化は、調査地点により増加箇所も減少箇所も存在する。
- ・ 中心市街地の中心軸である田原駅前通り線、はなとき通りの2地点における歩行者・自転車通行量は、平成13年頃以降は減少が鈍化しているものの、長期的には減少傾向にある。

図. 田原市の主要道路の12時間交通量(資料:各年道路交通センサス)

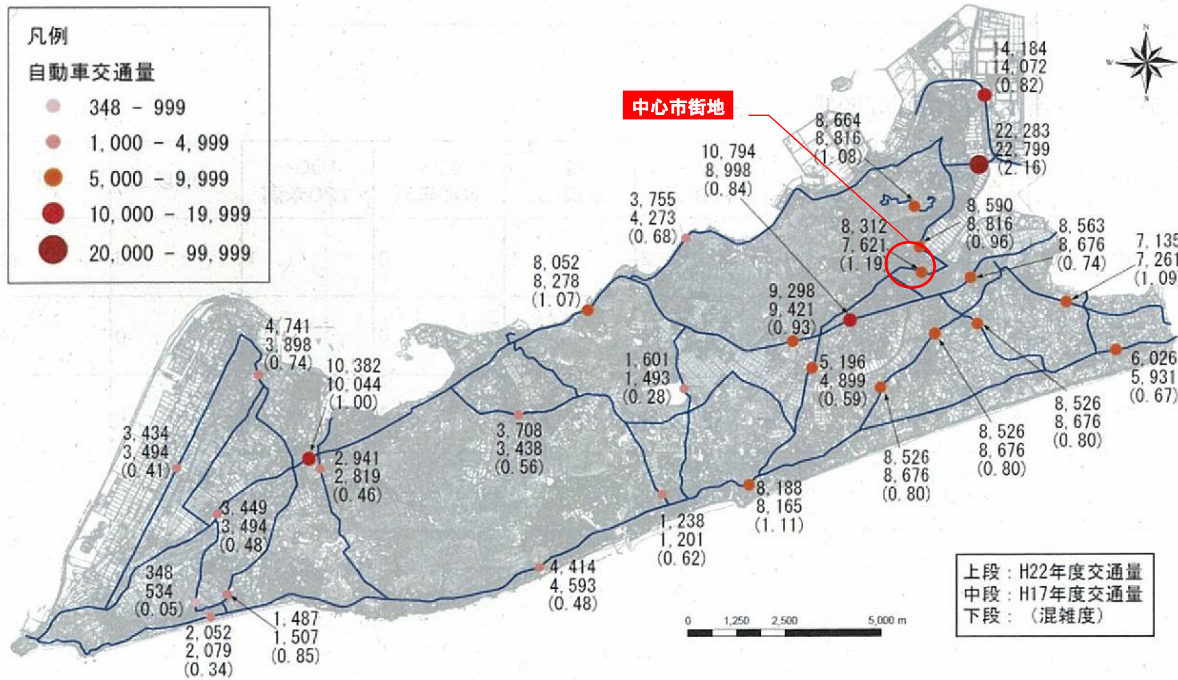
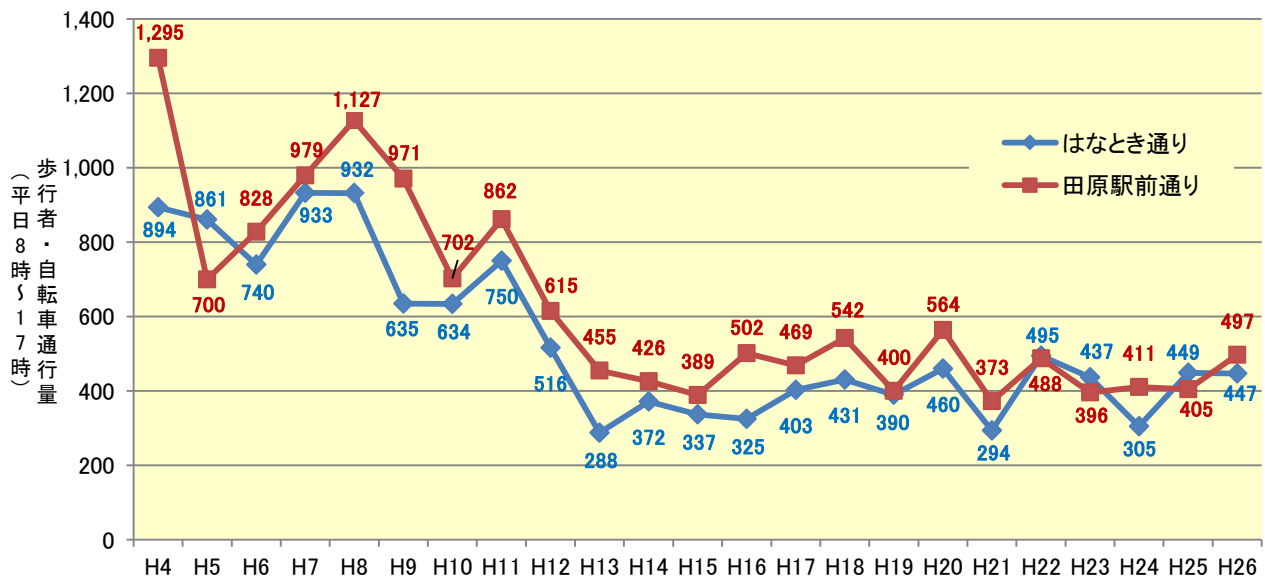


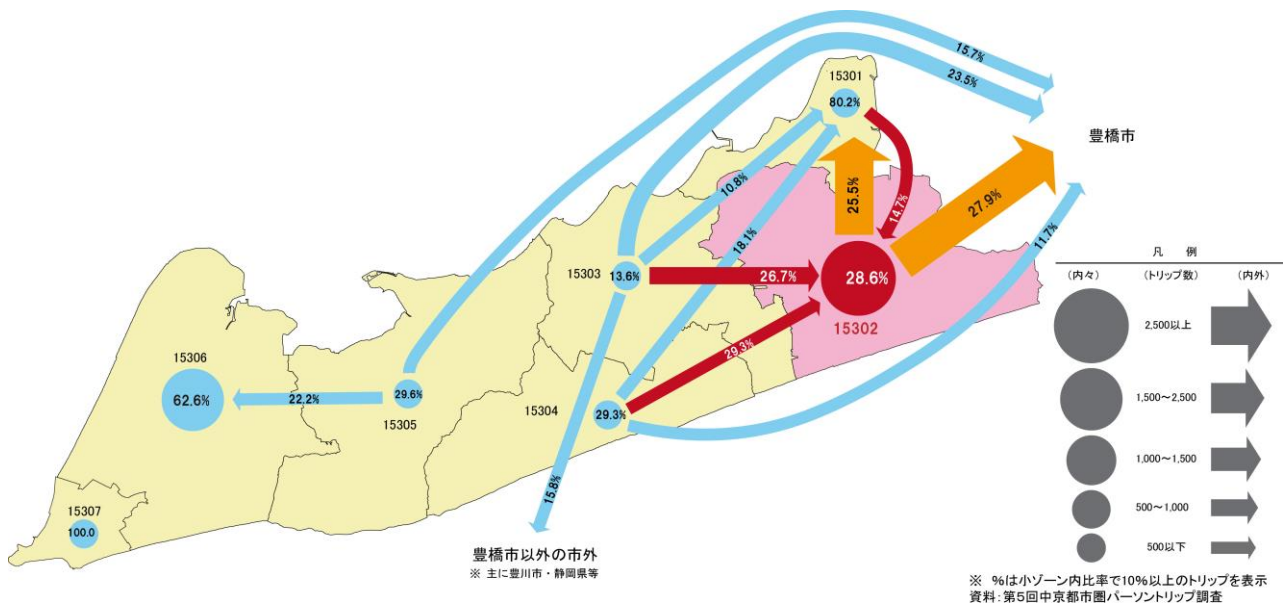
図. 中心市街地の歩行者・自転車通行量 (資料:成章高校調査)



【移動の状況（トリップの起終点の状況）】

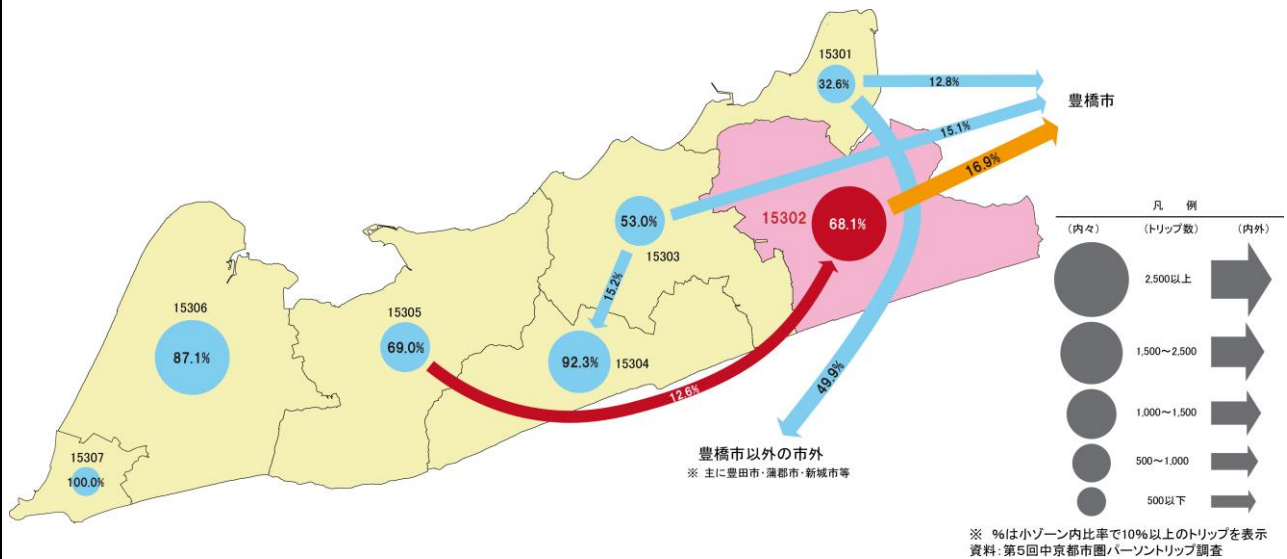
■出勤 ※自宅から勤務先への移動

- ・「15301」（臨海部市街地を含むゾーン）では、内々がおおよそ8割を占め、残りの多くは田原中心部へ出勤している。
- ・「15302」（中心市街地を含むゾーン）では、内々と田原臨海部、豊橋市への出勤の割合がほぼ同率となっている。
- ・「15303」（旧田原町の西部）以西になると、田原臨海部への出勤が比較的少ないことから、臨海部就業者の多くは「15301」「15302」に居住していることがうかがえる。



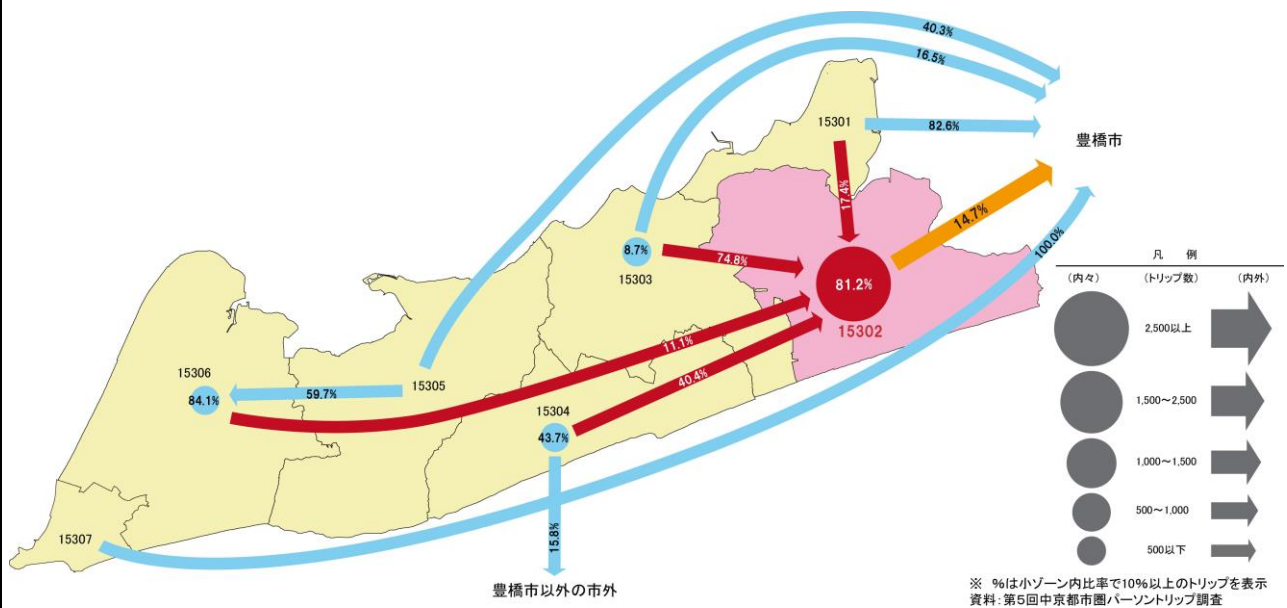
■業務 ※打合せ、会議、集金、配達、仕入れ、作業、農林漁業作業、帰社などの業務上の移動

・「15302」では、内々が約7割を占め、残りの多くは豊橋市に移動している。



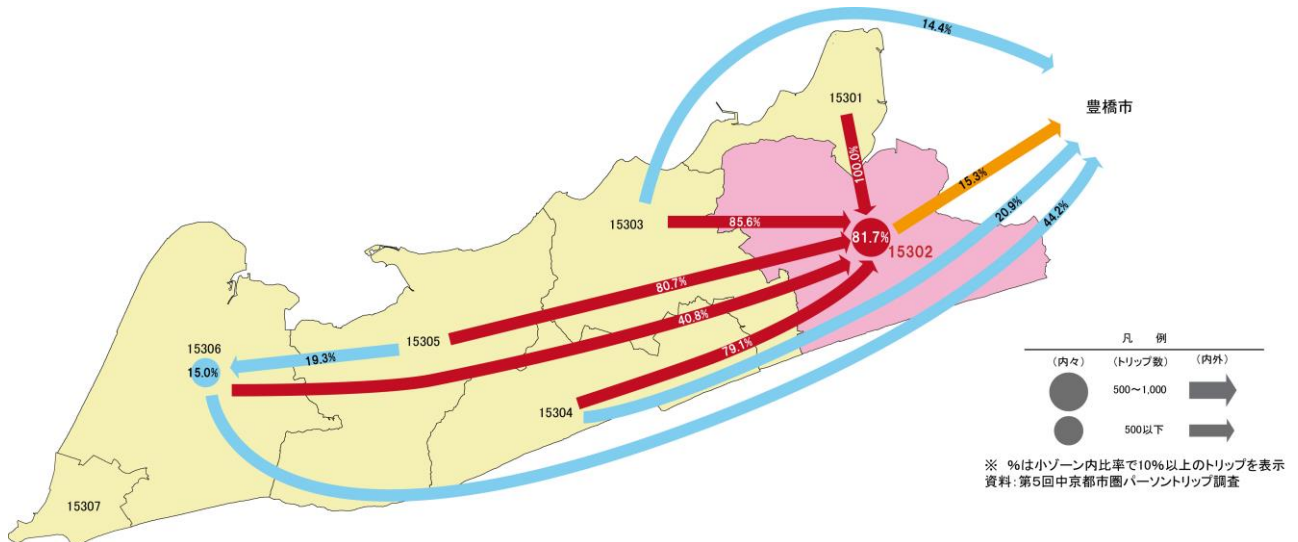
■日常的な家事・買い物

- ・「15301」では8割以上が豊橋市へ買い物に出かけている。
- ・「15303」では7割強が田原中心部へ買い物に出かけている。
- ・旧赤羽根町では約4割が田原中心部へ買い物に出かけているが、旧渥美町から田原中心部に出かけるケースは少ない。



■通院、デイケア・デイサービス

- 大半が渥美病院のある田原中心部へ通院している。ただし、「15306」（福江市街地を含むゾーン）では、田原中心部と豊橋への通院がともに4割程度とほぼ同率となっている。



■娯楽・文化

- 旧赤羽根町以東では、田原中心部への移動が多くなっている。



【地価・家賃等の状況】

- ・ 中心市街地の地価は、約 8 万円/㎡程度であるが、再開発事業を施行した敷地では 11.9 万円/㎡となっている。この数年は地価の大きな変動はないが、住宅地では若干上昇の傾向が見られる。
- ・ 貸家の月額家賃は 1K で 4.5 万円程度、2LDK で 6.5 万円程度が相場となっている。貸店舗は 175 ㎡で 21.6 万円（1,200 円/㎡）の物件が出ている。
- ・ 戸建住宅は 3,400 万円程度、売宅地は 8～10 万円/㎡程度の物件が出ている。

図. 中心市街地の地価、貸家・貸店舗、売住宅・売宅地の状況

(地価:国土交通省資料 貸家・貸店舗、売住宅・売宅地:(公社)愛知県宅地建物取引業協会HP)

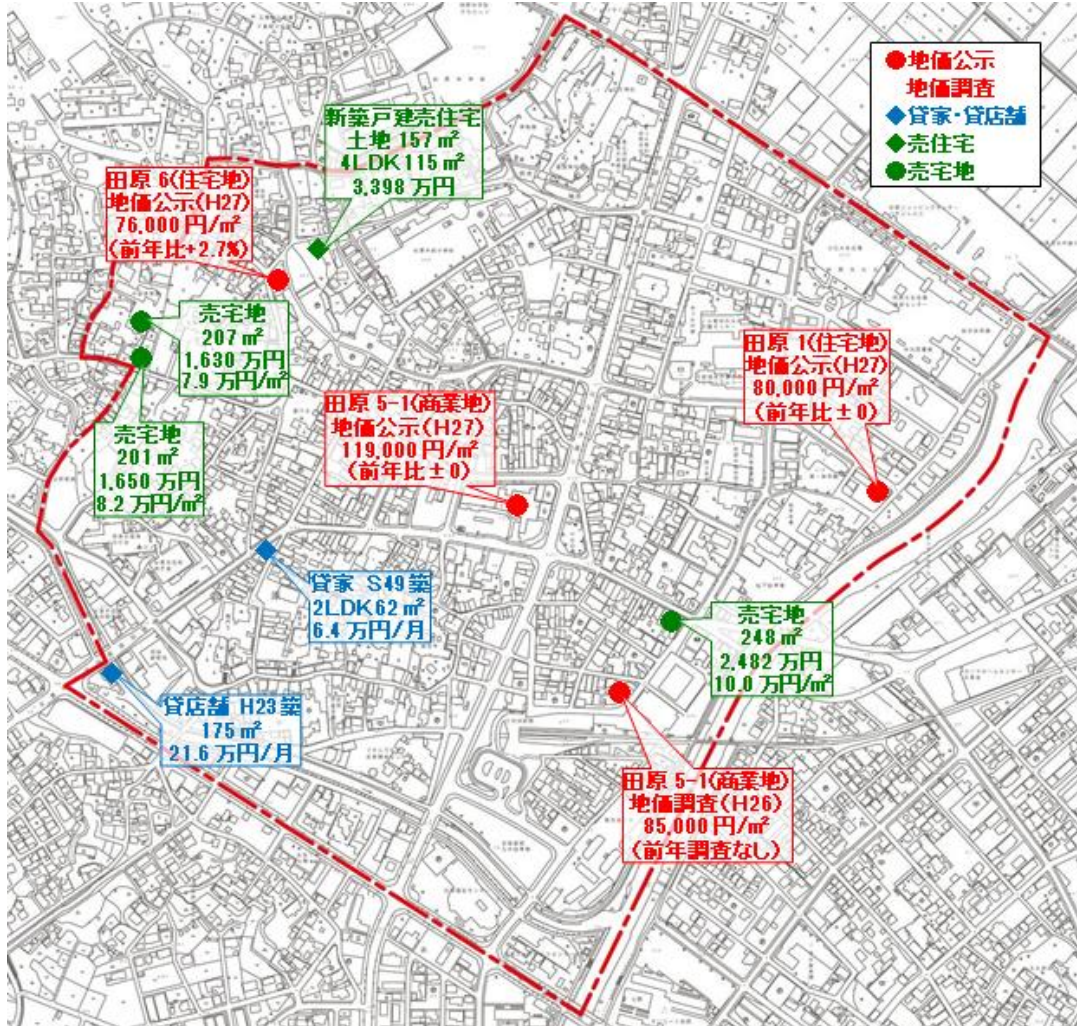
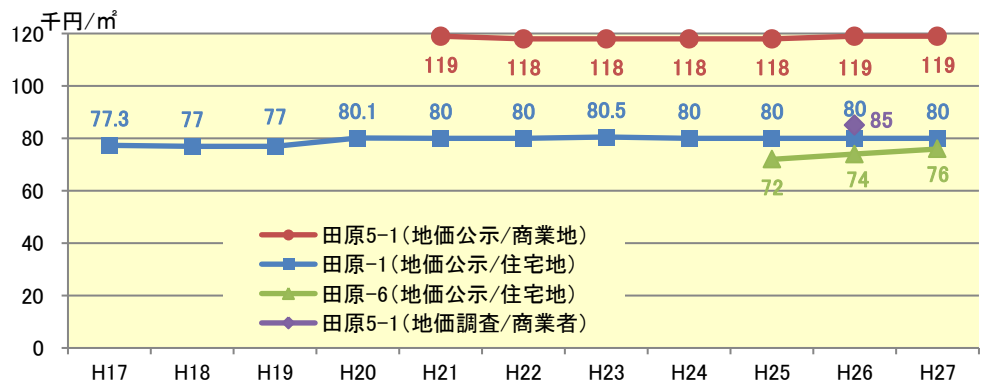


図. 中心市街地の地価の推移

(資料:国土交通省)



[3] 地域住民のニーズ等の把握・分析

平成 26 年 7 月に、中心市街地活性化に関するアンケートを田原市民、近隣住民、三河田原駅乗降者を対象に実施した。その結果を記載する。

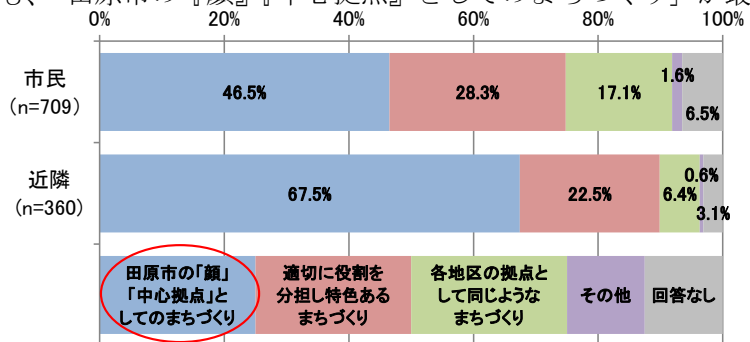
表. アンケート調査の実施の概要

種別	田原市民	近隣住民	三河田原駅乗降者
対象者	「近隣住民」の区域を除く市全域の 18 歳以上市民	萱町、新町、本町、一番組、赤石の全世帯	三河田原駅で鉄道から降車した人
調査期間	H26. 7/2～7/22	H26. 7/1～7/22	H26. 7/6～7/28
配布数	2,000 (無作為)	1,682	—
有効回答数	709 (35.5%)	360 (21.4%)	77

【設問】「中心市街地」のまちづくりは、どのような考え方で行うべきか。[1つだけ選択]

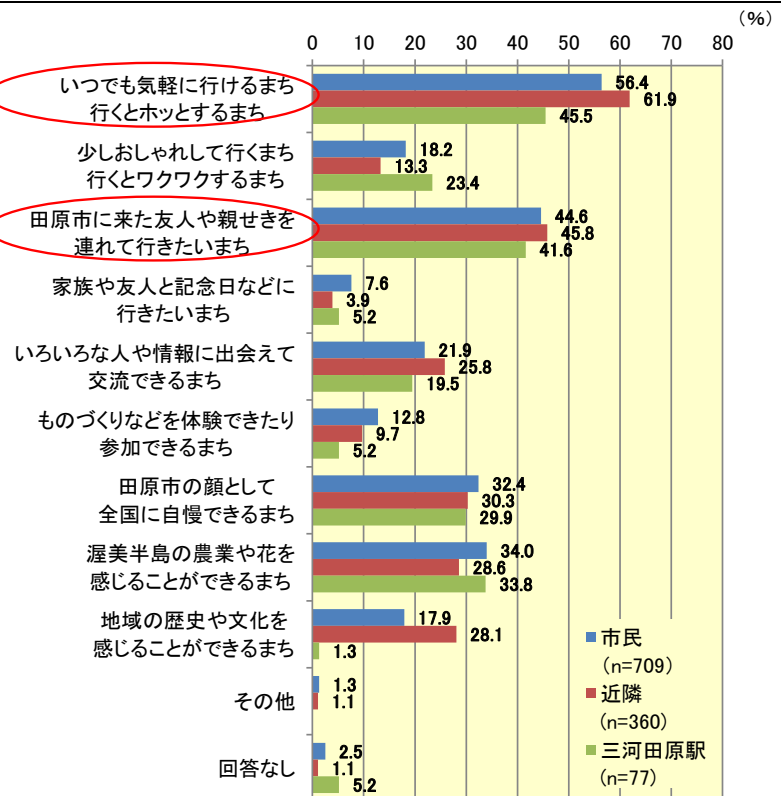
田原市民、近隣住民のいずれも、「田原市の『顔』『中心拠点』としてのまちづくり」が最も多くなっている。

(三河田原駅乗降者は設問なし)



【設問】「中心市街地」のまちで大切にすべきイメージ [3つ選択]

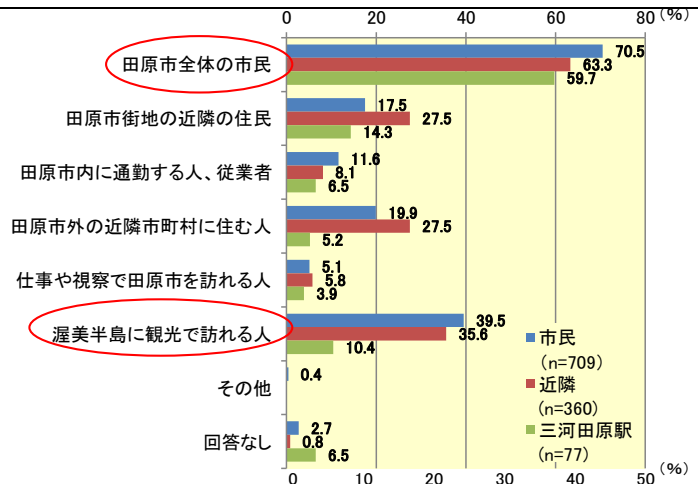
田原市民、近隣住民、三河田原駅乗降者のいずれも、「いつでも気軽にいけるまち、行くとホッとするまち」が最も多く、次いで「田原に来た友人や親せきを連れて行きたいまち」が多くなっている。



【設問】「中心市街地」のまちづくりにおいて特に意識すべき人

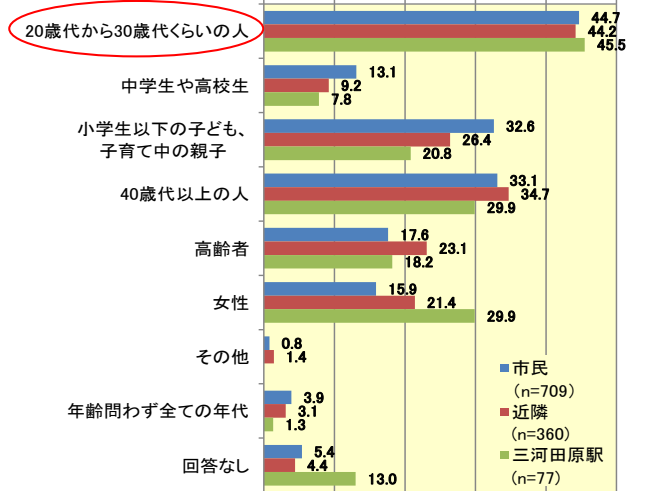
(1) 居住地や来訪目的 [2つまで選択]

田原市民、近隣住民、三河田原駅乗降者のいずれも、「田原市全体の市民」が最も多くなっている。また、田原市民、近隣住民は「渥美半島に観光で訪れる人」も多くなっている。



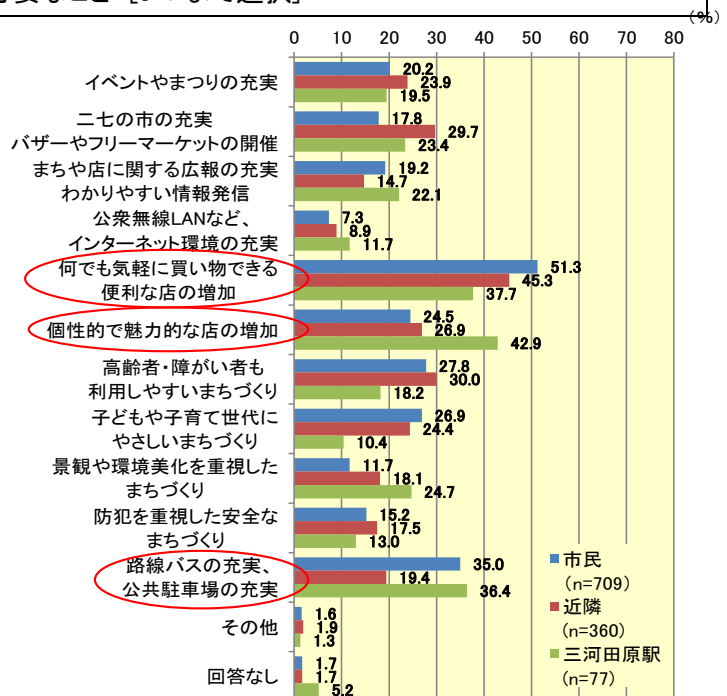
(2) 年齢層など [2つまで選択]

田原市民、近隣住民、三河田原駅乗降者のいずれも、「20歳代から30歳代くらいの人」が最も多くなっている。



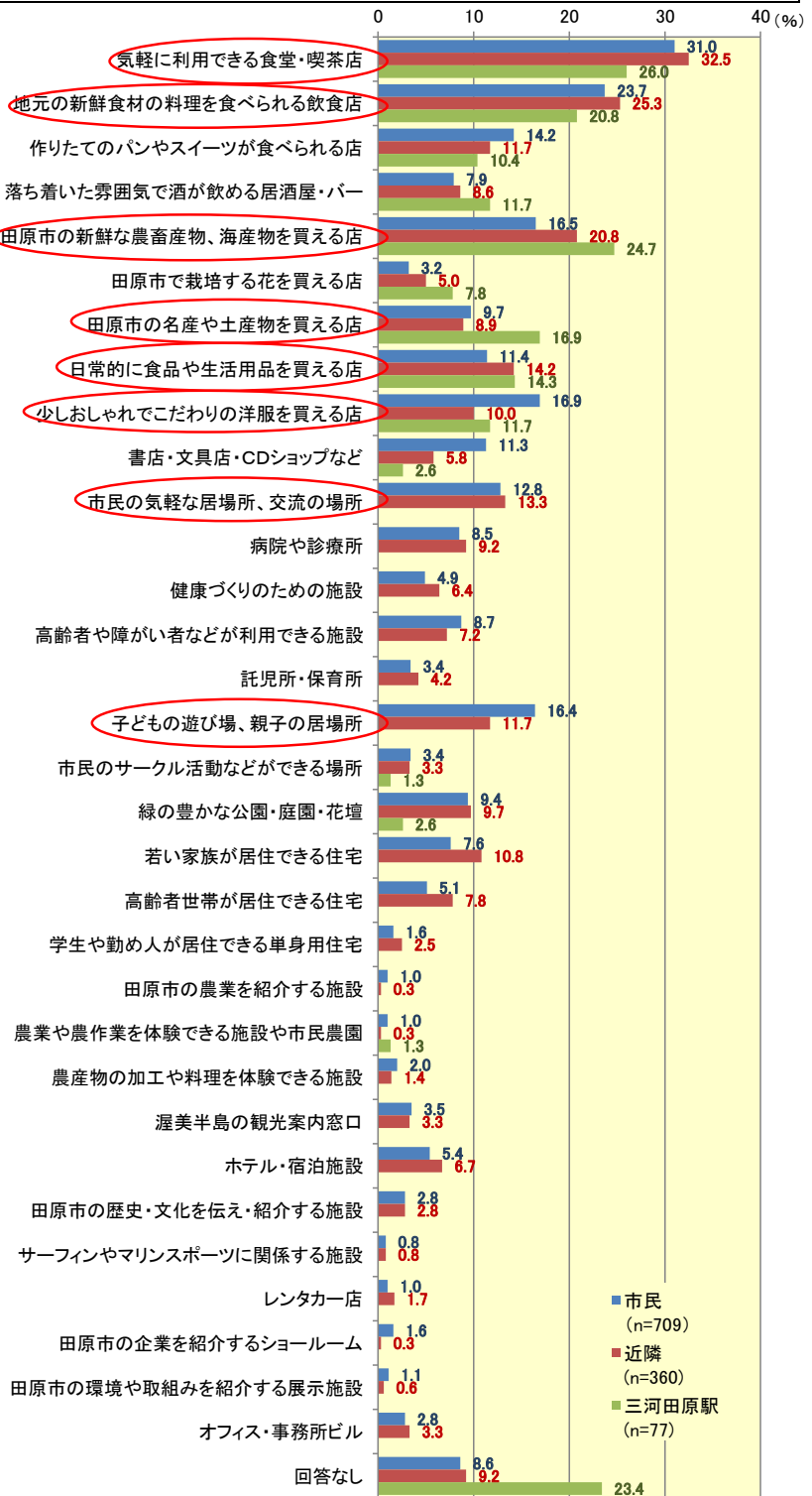
【設問】「中心市街地」のまちづくりにおいて必要なこと [3つまで選択]

田原市民は「何でも気軽に買い物できる便利な店の増加」が最も多く、次いで「路線バスの充実、公共駐車場の充実」が多くなっている。近隣住民は「何でも気軽に買い物できる便利な店の増加」が最も多くなっている。三河田原駅乗降者は「個性的で魅力的な店の増加」が最も多く、次いで「何でも気軽に買い物できる便利な店の増加」「路線バスの充実、公共駐車場の充実」が多くなっている。



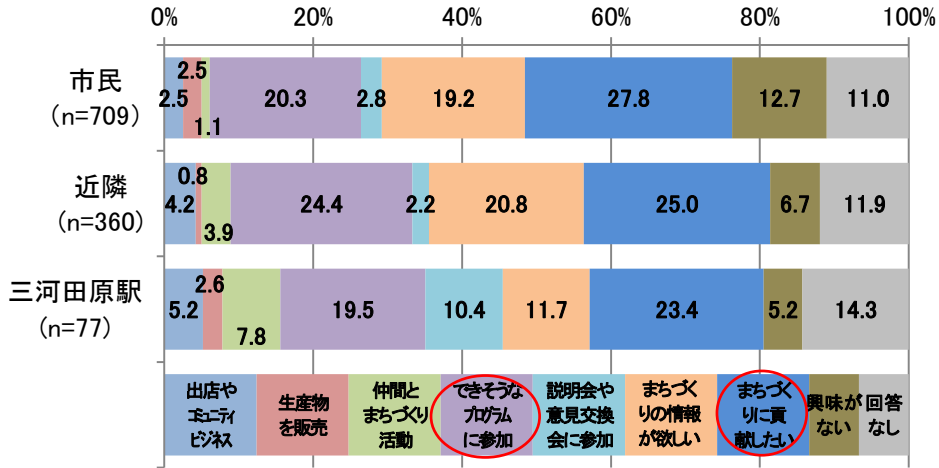
【設問】「中心市街地」において整備すべき施設 [3 つまで選択]

田原市民、近隣住民、三河田原駅乗降者のいずれも、「気軽に利用できる食堂・喫茶店」が最も多く、また「地元の新鮮食材の料理を食べられる飲食店」「田原市の新鮮な農畜産物、海産物を買える店」「田原市の新鮮な農畜産物、海産物を買える店」も多くなっている。その他、市民は「少しおしゃれでこだわりの洋服を買える店」「子どもの遊び場、親子の居場所」、近隣住民は「日常的に食品や生活用品を買える店」「市民の気軽な居場所、交流の場所」、駅乗降客は「田原市の名産や土産物を買える店」「日常的に食品や生活用品を買える店」が多くなっている。



【設問】「中心市街地」のまちづくりに関わりたいか [1つだけ選択]

田原市民、近隣住民、三河田原駅乗降者のいずれも、「まちづくりに貢献したい」が最も多く、次いで「できそうなプログラムに参加」「まちづくりの情報が欲しい」が多くなっている。



[4] これまでの中心市街地活性化に対する取組の検証

旧法計画に基づく取組

①計画の概要

【計画の名称】 田原町中心市街地商業等活性化基本計画

【計画期間】 平成 12 年度から平成 17 年度

短期：平成 12 年度～16 年度 中期：平成 17 年度～21 年度 長期：平成 22 年度～

【区域面積】 約 80ha

【活性化の基本方針】

- 商業の活気が感じられるまちづくり－「滞在する楽しみ」づくり
- 安心・安全で便利な暮らしやすいまちづくり－「快適に生活する楽しみ」づくり
- 様々な活動をつうじ人と人がふれあうまちづくり－「交流する楽しみ」づくり
- 田原の個性が感じられるまちづくり－「街の記憶にふれる楽しみ」づくり
- 自然を活かし四季を感じられるまちづくり－「四季の楽しみ」づくり
- 誰もが訪れやすく、訪れたいくなるまちづくり－「都市の楽しみ」づくり
- 住民自らが参加するまちづくり－「街を創る楽しみ」づくり

【一体的推進の目標】

人・夢・楽しみ あつまるタウン“たはら”－「公園型まちづくり」の推進

②事業の進捗状況

市街地の整備改善、都市福祉施設の整備、まちなか居住の推進、公共交通機関の利便性向上等の主にハード面の事業に関しては、旧田原町及び田原市を中心に着実に実施しており、必要な事業は概ね完了しているが、地域、民間事業者、関係機関等との合意形成や連携が必要な事業について、未実施が多くなっている。

一方で、商業活性化や経済活力の向上を中心としたソフト面の事業については、TMO（株式会社あつまるタウン田原）を中心に取り組んできたが、計画策定時に十分な実施スキームや役割の設定ができなかったことから、着手に至らなかった事業が多くなっている。今後は、都市基盤施設の整備効果をより発揮させるための、回遊性を高めるソフト施策及び人材育成が必要となっている。

◆旧法に基づく計画による事業の実施状況 【進捗】 ◎事業完了 ○事業中 △一部実施 ×未実施

【今後の対応】 ◎新規実施 ○継続実施 △将来的に実施 ー実施しない

<市街地整備改善のための事業>

No.	事業名	事業主体	進捗	実施状況/今後の必要性	今後の対応
1	田原中央地区市街地再開発事業	田原町	◎	セントファール	ー
2	三河田原駅周辺区画整理事業	田原町	×	街路事業へ整備変更	ー
3-1	中央地区1号線整備事業	田原町	◎	市街地再開発事業と併せて整備	ー
3-2	田原駅前通り線整備事業	田原町	◎	街路事業で整備	ー
3-3	田原中央線整備事業	愛知県・田原町	○	再開発区域～まつり会館まで完了	○
4	図書館・生涯学習センター整備事業	田原町	◎	中央図書館、情報センター	ー
5	高齢者支援施設整備事業	厚生連・JA	◎	あつみの郷	ー
6	児童館整備事業	田原町	◎	田原児童センター	ー
7	人にやさしいまちづくり事業	田原町	△	モデル地区は完了	○
8-1	大手門・外堀跡地公園整備事業	田原町	◎	大手公園	ー

8-2	ポケットパーク整備事業	田原町	○	残地の発生に応じて随時実施	○
9	汐川・清谷川周辺環境整備事業	田原町	×	今後実施する必要あり	◎
10-1	公共住宅整備事業	田原町・住宅公社	◎	セントラルコート築出 スマイルコート築出	△
10-2	シルバーハウジング整備事業	田原町・住宅公社	◎	セントラルコート築出	△
10-3	民間住宅立地促進事業	民間	×	融資優遇措置等は未実施 促進のための制度は今後も必要	△
11-1	緑化促進事業	田原町・住民	○	緑化や花壇づくり等は随時実施	○
11-2	街並み整備助成事業	田原町・住民	×	景観まちづくり施策として今後実施する 必要あり	◎
12	住民のまちづくり活動支援事業	田原町	△	商業主による活動支援は実施 人材発掘育成等は今後必要あり	◎
13-1	リサイクル支援事業	民間・田原町	×	全市対象の取組として実施	—
13-2	自然エネルギー活用事業	民間・田原町	△	公共施設の一部において活用	△
14	船倉橋周辺環境整備事業	田原町・民間	×	道路の整備とあわせた実施の検討 が今後必要	△

<商業の活性化のための事業>

No.	事業名	事業主体	進捗	実施状況/今後の必要性	今後の対応
15-1	再開発施設周辺商業施設近代化事業	事業組合・TMO	×	個別の空き店舗活用やリノベーション の促進は今後必要	◎
15-2	三河田原駅周辺商業施設近代化事業	事業組合・TMO	×		
15-3	田原中央線沿線商業施設近代化事業	事業組合・TMO	×		
16-1	再開発施設周辺空き店舗取得活用事業	TMO	×	先導的なモデル事業としての実施は 今後必要	◎
16-2	三河田原駅周辺空き店舗取得活用事業	TMO	×		
16-3	再開発施設商業床取得活用事業	TMO	◎	あつまるタウン田原が取得	—
17-1	中小小売商業高度化事業構想策定事業	商工会・TMO	×	まちづくりや経済活性化にむけた個 別事業の実実施計画として策定が必要	△
17-2	中小小売商業高度化事業計画策定事業	TMO	×		
17-3	指導事業	TMO	○	タウンマネージャーの養成は実施中	○
18-1	再開発施設周辺テナントミックス管理事業	TMO	×	空き店舗活用等における戦略的な業 種の配置・誘致は今後必要	△
18-2	三河田原駅周辺テナントミックス管理事業	TMO	×		
18-3	中心市街地内テナントミックス管理事業	TMO	×		
19	空き店舗活用促進事業	TMO・商工会	○	空き店舗バンクを運営	○
20-1	再開発施設内チャレンジショップ支援事業	TMO・商工会	○	セントファールにおいて実施中	○
20-2	中心市街地内チャレンジショップ支援事業	TMO・商工会	×	空き店舗を活用したチャレンジショッ プの開設・運営等は今後必要	◎
21-1	商業PR事業	TMO・商工会	△	マップづくり等は実施、メディア活用等 による情報発信は今後必要	○
21-2	バーチャルモール支援事業	TMO・民間・商工会	×	商業PRとあわせて実施の検討必要	△
21-3	観光促進PR事業	TMO・田原町	△	情報誌発行は実施、渥美半島全体に おける戦略的な観光PRが今後必要	△
22	カード促進事業	事業組合・TMO	×	健康マイレージ事業等にて促進	◎
23	イベント企画運営支援事業	TMO・民間	○	市から受託により実行委員会形式で 各種イベントを実施している	○
24-1	マーケティング事業	商工会・TMO	×	それぞれの事業検討の中で実施	—
24-2	人材教育事業	商工会・TMO	○	「たはら商人道場」を実施	○
25	名産品創出事業	民間	○	個々の事業者が任意に実施	○
26	宅配サービス事業	TMO・商工会	×	高齢者等の生活支援と商業活性化を 絡めた事業が今後必要	◎
27	小売商業等集団化・共同化事業	事業組合・TMO	×	共同店舗等は当面は不要	—
28	商店街パティオ事業	事業組合	×	三河田原駅前工場跡地において新た な集客拠点を検討	◎

<その他の事業>

No.	事業名	事業主体	進捗	実施状況/今後の必要性	今後の対応
29	循環バス整備事業	田原町・民間	○	コミュニティバス運行中	○
30	情報センター整備事業	田原町	◎	文化会館に設置	—

③ 中心市街地に対する市民の評価

市民意識調査による満足度・重要度調査によると、商業や都市整備に関する項目については、満足度は概ね向上し、重要度は低減しているが、大きな変化は見られない。これは平成 22 年から 25 年にかけて、整備効果を市民が実感できる事業を実施しなかったことが原因と考えられる。

表. 市民意識調査による満足度・重要度の状況（各年市民意識調査）

※数値は「2」「1」「0」「-1」「-2」の 5 段階評価の平均点、「-」は当該調査年度の調査項目なし

項目	満足度			重要度		
	H22	H25	変化	H22	H25	変化
商業の振興	-0.22	-0.09	up	0.62	0.55	down
交通基盤の整備	-0.32	-0.25	up	0.80	0.86	up
公共交通の整備	—	-0.12	—	—	0.67	—
市街地の整備	-0.13	-0.10	up	0.44	0.37	down
地域・住環境の整備	—	-0.06	—	—	0.36	—

[5] 中心市街地活性化の課題

○都市基盤施設の整備及び有効活用

中心市街地における都市計画道路、駅前広場、駅舎などの骨格的な都市基盤施設は整備が進んでおり、特に平成25年10月の三河田原駅舎移転や田原駅前通り線の開通により、駅周辺をはじめ、まちなかの人・車の流れは大きく変化している。

この様な中で、中心市街地の東西軸である都市計画道路田原中央線については未完成区間も残っていることから、車両通行の円滑化、歩行者の安全性を向上させるため、早急な整備完了が課題となっている。また、田原駅前通り線及び田原中央線は、道路整備は進んでいるものの幹線道路沿道にふさわしい景観を意識した土地利用の誘導が求められている。さらに、三河田原駅舎については、市民ニーズに応じた効果的な駅舎利用が求められている。このように、都市基盤施設の整備とあわせて、その整備効果を発揮させるための施設周辺の整備・誘導及びソフト施策の実施が課題となっている。

○商業機能の向上・集積

かつては田原市の中心として商業機能が中心市街地に集積していたものの、モータリゼーションの進展、ショッピングモール等の大規模店舗の郊外化、コンビニの進出、人口減少等により、中心市街地の店舗数や従業者数は減少した。はなとき通りやセントファーレ（複合商業施設）の整備により、一部賑わいを醸し出しているものの、依然、撤退する店舗が増えている。

このため、中心市街地の活性化に向けて、その時代の社会動向やライフスタイルを踏まえながら、本市にとって必要でふさわしい商業機能の立地・集積を積極的に図ることが課題となっている。

○まちなか居住の促進

中心市街地内の人口は平成17年から平成26年にかけて274人減少し、2,930人となっている。居住者が減少することにより、地域経済の低下や地域コミュニティが成り立たなくなることが懸念される。

このため、生活機能の充実等により暮らしやすさをさらに向上させるとともに、居住ニーズに対応した住宅及び住宅地の供給により、まちなか居住を促進することが課題となっている。

○回遊性の向上

中心市街地の歩行者・自転車通行量は平成4年から平成21年にかけて3分の1程度に減少しており、まちを歩く人の姿が多く見受けられない。これは、マイカーの普及とともに、数多くあった個人商店の減少等が要因と考えられる。

このため、中心市街地活性化のためには、市民及び市外の人に中心市街地に興味・関心を持ってもらい、もう一度訪れてみたいというリピーターを増やしていく必要がある。このため、ハード、ソフトの両面から歩いて回遊しながら楽しめる取組を行い、まちの魅力を創出することが課題となっている。

○地域資源のまちづくりへの活用

中心市街地内には田原城跡（博物館）や民俗資料館、寺社、古い町並みなどの歴史資源が多くあるとともに、中心市街地の周辺や本市全体にも、山、海、川などの自然資源、農畜産物、花卉、水産物などの地域産品等があり、地域資源に恵まれている。

中心市街地の魅力の向上のためには、こうした地域資源を十分活用した「田原らしさ」を感じることのできる特色あるまちづくりが課題となっている。

○空き家・空き地の適切な管理と有効活用

中心市街地内においても空き家及び空き地が多く存在しており、環境や景観、安全、地域の活力の観点からもその対応が必要となっている。住民の高齢化とともに子ども世代が同居しないために空き家化していく傾向が多く見受けられる。また、空き家・空き地となっても狭い敷地で駐車場等が確保できないため、建替えや再宅地化が難しいことも空き家・空き地増加の要因となっている。

このため、周囲の居住環境や商業環境等の阻害要因とならないように空き家・空き地の適切な管理を推進するとともに、不良な空き家の除却、空き地及び状態のよい空き家の循環及び利活用を積極的に図ることが課題となっている。

[6] 中心市街地活性化の方針（基本的方向性）

《本計画における中心市街地活性化の方針》

① 中心市街地の将来像

花・緑・歴史的景観など「田原らしさ」を感じられ、 歩いて楽しい活気あるまち

本市の中心市街地は、江戸時代は城下町、明治から昭和にかけては商工業・海運の発展に伴い、渥美半島の政治・経済の中心として賑わっていたが、現在では定住人口の減少や少子・高齢化及び商業機能の衰退が著しく進展している。そのため、中心市街地の核となる商業施設の整備や、まちなかへの回遊促進に取り組むことにより、賑わいの創出を図っていく。

また、本市最大の魅力である花・緑などの豊かな自然と、地域固有の伝統文化・歴史などの地域資源を活かした、「田原らしさ」を感じることができる特色あるまちづくりを推進し、より多くの人々で賑わう歩いて楽しいまちを目指し、中心市街地の活性化を進めていく。

② 中心市街地の活性化に向けた基本方針

基本方針① 多くの市民や来訪者で賑わうまちづくり

中心市街地活性化には、多くの人々がまちに来ることが不可欠である。本市の中心市街地も、歩行者通行量が減少しており、働く、買い物する、散歩する、遊ぶなど様々な目的で多様な人に来訪してもらうことが必要である。このため、渥美半島の地域資源を活用した魅力的な施設の設置、歴史資源を活用した景観形成や歩行環境の充実等により、商業の活性化や「賑わい」の創出を図ることを方針とする。

基本方針② 住みたくなる、住み続けたくなるまちづくり

本市の中心市街地には住宅地も多いことから、来訪者による賑わいだけではなく、住民の生活に係る活力の向上も不可欠である。中心市街地の人口は減少傾向にあることから、減少傾向を食い止め、長期的に増加の道筋をつけることが必要である。そのためには、現在の住民が不安なく住み続けるとともに、市外の人にも居住地としての魅力を感じてもらい、転入者を増やすことが必要である。このため、居住環境の整備や魅力づくりにより、「まちなか居住」を推進することを方針とする。

基本方針③ 誰もが活動したくなるまちづくり

中心市街地には、多様な人が様々な活動ができる場の提供が不可欠である。業務拡大、起業、新規出店などのビジネス活動、文化活動やコミュニティ活動など市民レベルの活動などが展開されることにより、「賑わい」や「まちなか居住」の向上とも相乗効果になると期待される。このため、市民や来訪者が中心市街地で何かしたくなる、誰もが活動できるような場や機会をつくることを方針とする。

＜田原市の将来都市像＞
（改定版第1次田原市総合計画）

うるおいと活力のあるガーデンシティ

海と緑に包まれた渥美半島の中で、活発な産業と豊かな暮らし
が共存する美しく誇りあふれる田園都市の実現



＜中心市街地の将来像＞

**花・緑・歴史的景観など
「田原らしさ」を感じられ、
歩いて楽しい活気あるまち**

＜中心市街地活性化の課題＞

○都市基盤施設の整備及び有効活用

○商業機能の向上・集積

○まちなか居住の促進

○回遊性の向上

○地域資源のまちづくりへの活用

○空き地・空き家の適切な管理と有効活用

＜中心市街地のまちづくりの基本方針＞

▼基本方針①
多くの市民や来訪者で賑わう
まちづくり

▼基本方針②
住みたくなる、住み続けたい
まちづくり

▼基本方針③
誰もが活動したくなる
まちづくり

《中心市街地の将来像》

花・緑・歴史的景観など
「田原らしさ」を感じられ、
歩いて楽しい活気あるまち



《中心市街地まちづくりの基本方針》

▼基本方針① 多くの市民や来訪者で賑わう

まちづくり

目標	目標指標	基準値	目標値
まちなかを 歩く人を増やす	歩行者・自 転車通行量	1,769 人 (H27)	2,100 人 (R2)

▼基本方針② 住みたくなる、住み続けたくなる

まちづくり

目標	目標指標	基準値	目標値
まちなかに 住む人を増やす	居住人口	2,941 人 (H27)	3,040 人 (R2)

▼基本方針③ 誰もが活動したくなるまちづくり

目標	目標指標	基準値	目標値
新規出店や 活動場所を増やす	新規出店・ 開設施設数	17 件 (H22～26)	25 件 (H28～R2)



《まちづくりの主なターゲット》

市民、来訪者を問わず、すべての世代にとって暮らしやすい、活動しやすいまちを目指す。その上で、持続的な賑わい及び活性化を考え、特に、若い世代の生活や活動を大切にしたいまちづくり、具体的には20歳代から40歳代程度の人や家族世帯が行きたくなるまち、住みたくなるまちを目指す。

《実施事業》

【市街地の整備改善のための事業】 ●ハード事業 ●ソフト事業

事業名	実施期間	新規継続	方針対応
[1] ●歴史ウォーキングトレイル修景事業	H28～R2	新規	①
[2] ●水辺ウォーキングトレイル修景事業	H28～R2	新規	①
[3] ●まちなか案内板・サイン整備事業	H30～R2	新規	①
[4] ●まちなか広場整備事業	H28～30	新規	①③
[5] ●市道東大浜西大浜線道路改良事業	H28～30	新規	①②
[6] ●公共駐輪場整備事業	H28～30	新規	①②
[7] ●ポケットパーク整備事業	H28～R2	新規	①②
[8] ●まちなか修景整備事業	H30～R2	新規	①②③
[9] ●都市計画道路田原中央線道路改良事業	H28～	新規	①②
[10] ●都市計画道路田原駅南線道路改良事業	H17～29	継続	①③
[11] ●市道東大浜4号線道路改良事業	H17～29	継続	①②
[12] ●バリアフリー化推進事業	R1～R2	新規	①②
[13] ●大手公園修繕事業	H30～R2	新規	①②
[14] ●市民交流ひろば有効活用事業	H28～R2	新規	①③
[15] ●低・未利用地活用事業	H28～	新規	①②③
[16] ●まちなか景観ガイドライン策定事業	H28～R2	新規	①②

【都市福祉施設に関する事業】

[17] ●居場所づくり支援事業	H30～R2	新規	①②③
[18] ●在宅高齢者御用聞きサポート事業	H29～	新規	②
[19] ●福祉センター機能向上事業	H28～R2	新規	①②③
[20] ●健康マイレージ事業	H26～	継続	①③

【住宅供給、居住環境向上のための事業】

[21] ●空き家・空き地バンク活性化事業	H21～	継続	②③
[22] ●空き家修繕等助成事業	H21～	継続	②③
[23] ●住宅供給推進事業	H28～	新規	②

【経済活力向上のための事業】

[24] ●三河田原駅前工場跡地活用事業	H28～30	新規	①③
[25] ●空き店舗活用モデルリノベーション事業	H28～R2	新規	①③
[26] ●起業チャレンジ促進事業	H29～R2	新規	①③
[27] ●産業人材育成事業	H25～	継続	①③
[28] ●幸せの四つ葉プロジェクト事業	H25～	継続	①③
[29] ●まちなか賑わいイベント開催事業	H17～	継続	①
[18] ●在宅高齢者御用聞きサポート事業【再掲】	H29～	新規	②
[30] ●出店促進事業	H25～	継続	①③
[31] ●チャレンジ支援事業	H26～	継続	①③
[32] ●創業支援ワンストップ窓口設置事業	H29～	新規	①③
[33] ●駅前一体活用プロジェクト事業	H28～R2	新規	①③
[20] ●健康マイレージ事業【再掲】	H26～	継続	①③

【公共交通に関する事業、その他の事業】

[34] ●シンボルロード花いっぱい事業	H25～	継続	①
[35] ●軒先ベンチ提供事業	H29～R2	新規	①
[36] ●田原市街地バス運行事業	H27～	継続	①②
[37] ●バス待合環境整備事業	H26～R2	継続	①②
[38] ●まちなかレンタサイクル利用促進事業	H30～R2	新規	①
[39] ●レンタカー、カーシェアリング誘致事業	H29～R2	新規	①

③中心市街地の基本構造・ゾーニング

田原駅前通り線及びはなとき通りを「南北中心軸（シンボルロード）」、田原中央線を「東西中心軸」として中心市街地の骨格軸とし、また、主要な公共施設、文化施設、商業施設等の周辺をそれぞれ機能別の核として位置づける。特に三河田原駅周辺については、駅及び駅前広場を「公共交通核」、三河田原駅前工場跡地周辺は「エントランス核」として位置づけて、まちづくりを進める。

土地利用については9つのエリアに区分し、下のようの方針を定める。

まちなか賑わいエリア
田原市の玄関口における集客・交流拠点として、商業の活性化・賑わいの創出を図り、市民・来訪者交流エリアと共に、田原市のシンボルロードの沿道としてふさわしい人通りの多いエリア
まちなか賑わい・居住エリア
飲食店を中心とした商業の活性化を図るとともに、駅に近いという利便性を活かした居住環境の整備により、活気あふれたエリア
市民・来訪者交流エリア
三河田原駅を中心として交通結節点の機能を有するとともに、低・未利用地を活用して商業の活性化・賑わいの創出を図り、多くの市民や来訪者が集い、交流するエリア
沿道賑わいエリア
市民や近隣住民のための商業・サービス施設と住宅が調和しながら立地し、生活の賑わいが感じられるエリア
まちなか居住エリア
利便性と良好な住環境を兼ね備えた、空き家・空き地のないエリア
文化・福祉エリア
文化施設、福祉施設を中心に、家族向け、高齢者向け等の集合住宅も立地する、良好な住環境の住宅エリア
歴史・教育エリア
田原市街地の歴史文化の拠点として、豊富な資源を活用し、「昔ながらの田原らしさ」を守りつつ、歴史文化と触れ合えるようなエリア 同時に、学校施設に安全に通うことができる閑静な住宅エリア
福祉エリア
福祉センターを中心に、高齢者、障がい者、子ども等の多様なニーズに対応できるエリア
防災・公共サービスエリア
防災の拠点であり、市役所を中心とした公共サービスを気軽に受けられるエリア

中心市街地の基本構造・ゾーニング図

